

# アジアと女性解放

## Asian Women's Liberation

アジアの女たちの会

連絡先：  
東京都渋谷区桜ヶ丘14-10 渋谷コープ211号 400円

逐次刊行物

第 63.2.23 和

国立婦人教育会館  
婦人教育情報センター

### 特集：アジアの女たちの詩<sup>うた</sup>

韓国、フィリピン、台湾、ベトナム、タイ  
シンガポール、マレーシア  
インドネシア、ネパール、インド  
パキスタン、スリランカ  
日本 付・解説



- 光州のオモニたち
- いまなぜ  
「日の丸」「君が代」?
- “性的搾取”に反対する  
連帯の輪をひろげよう!

No.17

1986.3

女性差別・民族抑圧からの解放をめざして!



# アジアの女たちが 歌っています。 語っています。 叫んでいます。

マニラのスラムで、人間の尊厳と正義の闘いに倒れた息子を誇る母の声。ジャングルの奥深く解放の闘いに散った若い女性が書き遺した詩。スリランカのプランテーションで茶摘み労働のつらさをはねのけようとする女の誓いの詩。多国籍企業の工場に青春を奪われた韓国・台湾の女子労働者の憤り。肥え太る性産業の犠牲にされたタイの女たちの呻き。マレーシアのカンポン(村)にとり残された貧しい母と子の身上話。レイプされた女の呪い。読み書きのできない年老いた女の嘆き。女を縛る因習の鎖を断ち切ろうとする女の決意。そして解放に向かって前進する女たちの力強い歌声……

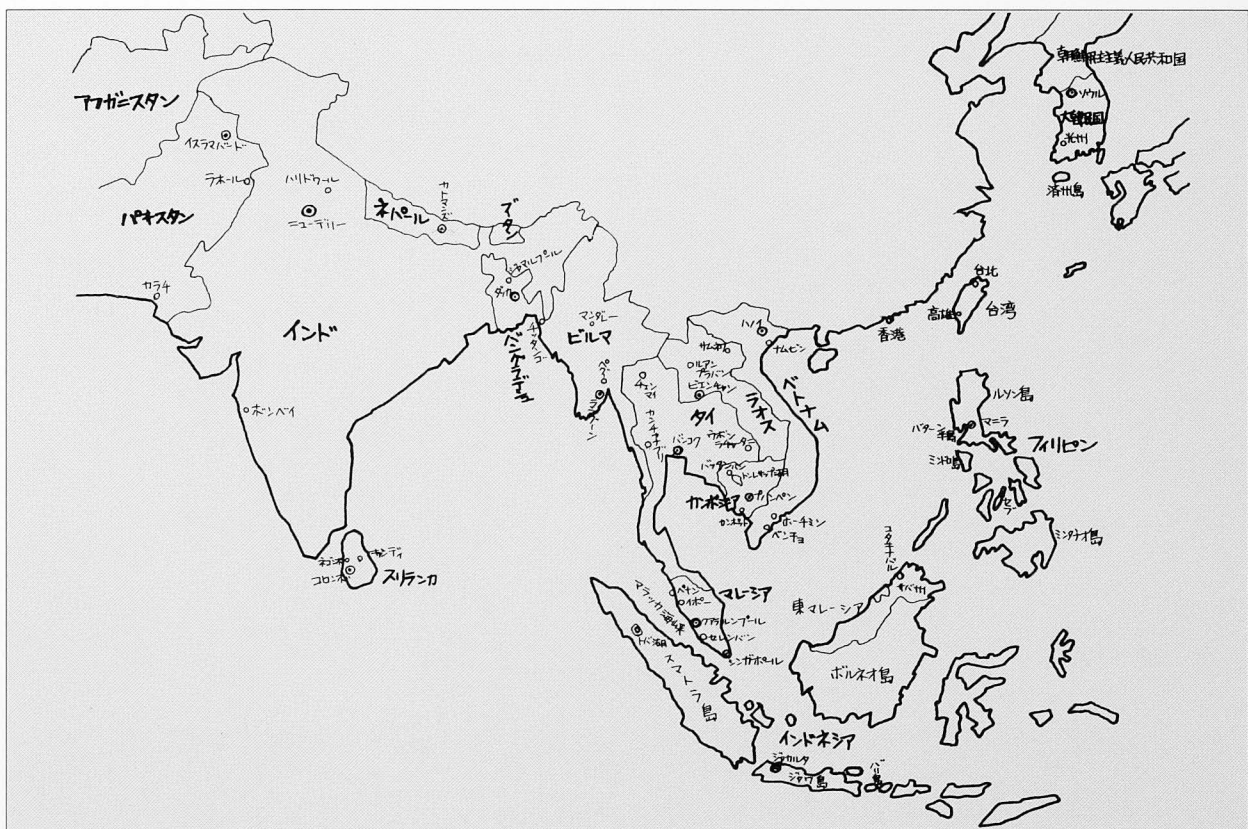
こうしたさまざまな人生を生きるアジアの女たちの歌声は、私たち日本人の女たちに聞こえてきません。物質的豊かさにぬくぬくと安住した日常生活、情報の洪水の中に真実を隠してしまうマスコミ、そして何よりも日本が同じアジアの国々を搾取し侵略する経済や政治の仕組みによって分断されて、その歌声はかき消されてしまうからです。

しかし、私たちは、彼女たちが歌い続ける血と汗と涙の歌、闘いの歌に耳を傾けたいと思います。経済大国の内部で差別されているからこそ、同じ体制に抑圧されている女たちの声を聞くことができるのです。そして、励まされるのです。

私たちが国境を越えて解放の歓びの歌を共に歌える日が来ることを願いつつ、このささやかなアジアの女たちのアンソロジー(詩歌集)をお届けします。

一九八六年三月

アジアの女たちの会



## 囚われの女たち

私の友よ

耳を傾けておくれ

遠い昔から

天の半分はますます暗闇につつまれ

地球の半分はますます貧しくなる

なぜなの？

女たちが囚われているため

女たちは封建的伝統と保守的な因習の鎖につながれ

女たちは不平等で不正な社会の中で

抑圧されている

女たちは平等と正義を求める

女たちは進歩と参加を求める

しかし女たちは囚われの身

女たちの道は棘の道

無数の困難がその道程に立ちふさがる

女たちは自由を求める

女たちは個の尊厳と権利を求める

しかし女たちは囚われの身

女たちはいたるところで搾取される

女たちは教育、経済、全てにおいて差別される

女たちは知識を求める

女たちは読み書きをしたい

しかし女たちは囚われの身

女たちの知性は

盲信的規範と価値に閉ざされ

女たちの行動は

因襲的な考えに阻れる

女たちは自己をもち

女たちは決断力をもちたい

しかし女たちは囚われの身

現在

女たちは文盲と貧困から脱け出す松明の

火を探し求める

女たちは闇と汚れを落とす太陽を探し求める

女たちは囚われの身だけれども

その声は進歩と正義と平等を求める

女たちは参加と自由と平和への道を歩み始める

## ネパール 最貧国に生きて

大国インドと中国にはさまれ、ヒマラヤを抱く内陸国ネパールは、最貧国の一つに数えられている。女性の置かれている状況は、ヒンズー文化の女性差別の伝統と、低開発農業国ゆえの貧困のために、悲惨である。たとえば、昔ながらの性別役割分業が牢固としていて農村での男性の一日平均労働時間が七・五時間なのに対して、女性は一〇・八時間も働いている。農作業プラス、たきぎとり、水汲み、料理、育児など女性は休む間もなく働かされる。女子の就学率は小中学校含めて今なお二〇％台で、八割は学校へ行っていない。家族が女の子の労働に頼っていることと、十二、三歳の早婚が今も行なわれているためである。教育も受けずに年若くして結婚し、過重労働をやりながら次々と生まれる子どもの育児に追われ、何人もの子どもを死なせ(乳児死亡率は人口一〇〇〇に対して一〇〇をこえている。ちなみに日本は五・五で世界最低)健康もそこなわれがちで、早死してしまう(ネパール女性の平均寿命はわずか四二・五歳で、男性よりも短い)。痛ましい女の一生である。売春婦としてインドのボンベイなどに送り込まれるネパール女性のことも問題になっている。国際婦人年の七五年にはざつと三千万人の女性が売られたのに対し、最近では三千万人もインド各地で売春をさせられているという。もうひとつは人口問題で、家族計画について知っている女性はわずかに十％、一方中絶がきびしく禁止されているために、もぐりの中絶が当局に知られて何年も投獄されたらしい。手術の失敗で死んだりするケースも後を絶たない。ネパールに対して世界各国から政府・民間の援助が行なわれているが、はたして、女性の苦しみを軽くすることになっているか。





## 祖国と女たちの解放に 命を捧げたローリー

母は幼い頃あなたに教えた。

街にあふれる乞食や苦しむ人を救うのは

同情ではなく 教育——彼女たちがなぜそうなのかを

自分で学ぶ機会を与えること。

フィリピン大学で人類学博士号を取得したあなたは  
左手に銃、右手にペンをもち

闘いながら詩、エッセイを書いた。

MAKIBAKA 女性解放組織のパイオニア

革命的議長のあなたは

女を男に従わせる文化を問い

MAKIBAKAを民族の闘いと結びつけた。

ローリー あなたの名はマ・ロレーナ・バアロス。

一九七一年地下に潜んだあなたは

二年のちに権力の罠に陥いる。

一九七三年結婚した夫は投降。

裏切られたローリーはその次の年 脱獄に成功

四人の仲間と新人民軍に加わり

山岳地帯で戦い、傷つき、そのうち銃殺される。

一九七四年三月二十四日 二十八歳

若い生命は祖国と女たちの解放の闘いの中で倒れた。

母は革命に生命を捧げた我娘を愛しみ、哀しむ。  
娘の死はそれでも、いまなお母の誇り。

ローリーの声が聞える

死は逃れないものなら、死の意味を生ある人に  
残すこと。

三月二十四日 フィリピンの女たちはこの日

ローリーを想い、革命への情熱を燃えたさせる。

ローリーは一九七三年、逮捕され、獄中闘争ゆえにマニラの  
イビル矯正所に移送された。その時に作ったのが次の詩である。

あなたがいなければイビルで耐えるのはつらい。

一枚の木の葉が私の手もとに落ちる。

ともに過ごした時間のようにはそれはもはや思い出  
別れの悲しさ。

それは一枚の木の葉のために流される涙。

苦しみは

枝先の約束された新たな蕾が癒やしてくれる

私たちの友情は

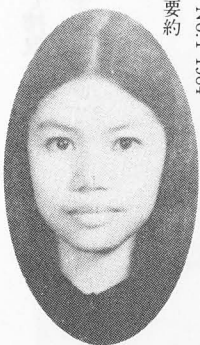
人々の戦いの豊かな土から養分を吸収する

私たちの友情は絶えることなく成長し

人々のために実を結ぶ

出典：BABAYLAN Issue No.1 1984

(Philippines) からの要約



## 基地売春婦のつぶやき

ヒルダ

生きのびるためには

売春だって、ホステスだって

なにもしないよりましじゃない

なんだかんだいっても

自分の利益のために人を使うのは人の生き方じゃない

お客が私たちを使っていると思うのなら

私たちだってお客を使っていると言えるよ

あやつられっぱなしの世の中で暮しているんだもの

考えると悲しくなるのは

わたしたち 貧しくて ホステスしていると

あやつられて バカにされること

もっと悲しいのは

あなたがた専門家たち、インテリたち、学生たち

あなたがたがゲームの役割を演じていることが

わかっていないこと

そして一番悲しいのは

現実をあやつっている奴らが

世の中で一番尊敬されていること。

出典：「オロンガボの管理売春の社会学的分析」から

NO TIME FOR CRYING By Alison Wynne

(Published by) Resource Centre

for Philippine Concerns 1980

## 出稼ぎの女

ローザ・コボラ

故郷でも、異郷の地でも、

くる日もくる日も昨日と同じ、働くあなた。

でも幸せな日——故郷に帰る日が必ずくる。

故郷に戻ると何かが違う。

成長した子供たちの姿。

あなたについて知っているのは

——あなたの名前だけ。

あなたは必死に愛し、子供たちを惹きよせる

再度結ばれる昔の絆。

あなたの夢の日々はあつてなく過ぎ、

再度出かけていく。

仕事が始まる。

思い出を靴にいつばいつめて

あなたの魂はここを離れていく。

到着と出発の合間

一年、二年の出稼ぎをくり返し、過ぎていく。

これがあなたの人生。

出典：BALAI

WOMEN AND MIGRATION

NUMBER 12

## フィリピン 解放の闘いになろう

フィリピンでは、もともと財産の所有、政治への参加、教育などといった面で男女平等であり、女性の地位は高かった。この後四〇〇年間にわたるスペイン、アメリカ両国による植民地支配は、キリスト教をはじめとする女性差別のイデオロギーをもたらし、男男女平等の伝統的価値観は根強くあり、エリート女性の社会的進出の背景となっている。高等教育を受ける女性の割合は、男性と比べても劣らず、公機関、企業、大学などで高い地位を得ている女性も多数いる。

しかし中産階級出身のこうしたエリート女性性は、全体の十〜十五％であり、農村や都市の大部分の女性は、農作業、工場労働、物売りといった仕事に加え、家事・育児の負担に苦しんでいるという、階級的な二重構造が目立つ。

政府は六〇年代後半から輸出指向型工業化政策をとり、農村では緑の革命が進められるとともに現地の支配階級と組んだ多国籍企業によるアグリビジネスが浸透していった。七二年、マルコスによる戒厳令施行以後、輸出加工区ができるなど外資と外国市場に依存する開発政策は急速に発展し、プランテーションや工場働く女性の数も増加した。しかし、商品作物や電子・縫製といった輸出に頼る経済は、国際不況の影響をもろに受ける弱さがある。七九年の第二次石油ショック以後



対外債務の増大、輸出の不振、失業、物価の上昇による実質賃金の低下などで生活は目にみえて苦しくなり、特に八三年のアキノ暗殺以後、状況はさらに悪化している。

土地を失い、食べられなくなった農民は、都市へと出稼ぎに行き、都市では巨大なスラムが形成されている。現在、農村には十五才以上の女性の五九パーセントにあたる九六七万人(全人口五三〇〇万人)が住んでいるが、教育を受けるチャンスも少なかった農村女性性は、最も抑圧されているといえる。

若い女性性は、職をもとめて農村から都市へと移動する。工業化は女子雇用者(二七三万人)を増加させたが、このうち七五万人の女性性が輸出の上位を占めている縫製・エレクトロニクスの工場で働いている。

また戒厳令以後、観光政策が促進されたことにより、マニラだけで十万人ともいわれる売春婦をうみだしたことはよく知られた事実だが、スービック、クラーク米軍基地の周辺にも二〜三万人の売春婦がいる。彼女たちの多くも貧困に苦しむ農村の出身である。

七〇年代後半からは、中近東などへの出稼ぎが盛んになり、現在、一〇〇万人以上の労働者が海外で働いている。そのうち女性性は二五万人、メイド、看護婦、エンターティナイがその職種であるが、賃金不払い、パスポートのとりあげ、さらには強姦などの性的搾取もうけている。

開発政策の矛盾を女性性におしつけている体制に怒り、スラム、人権、労働運動などの様々な解放闘争の場面で、女性たちが活躍している。

## ハリナ

リナはきれいな娘だった  
繊維工場で夜勤の時  
組合に入ってストに加わった  
突然さわぎが起りリナは見えなくなった  
やっと見つかった時彼女は裸にされ死んでいた  
さあ戻っておいで  
なきさらにきものを着せて リナを休ませよう  
私たちの心の中に

ペドロ・ピラピルは農夫  
彼の恋人 それは大地  
ある日 だれかが来て  
ペドロの土地を取りあげた  
ペドロは抵抗し撃たれて死んだ  
さあ戻っておいで  
ペドロがまいた種を育てよう  
私たちの心の中に



アリン・マリアは住んでいた  
ゴミの山のそばに  
ある日 その家は  
ブルドーザーで押しつぶされた  
旅行者たちがやって来るから  
家中 みんな宿なしになった  
さあ戻っておいで  
家を建てよう アリン・マリアの家族のために  
私たちの心の中に



## わが息子の鳩

ミラ・アギラ

私のいる荒れた獄の中で  
生まれ 育ったつがいの鳩を  
息子にやった。

鳩は羽をテープで縛られていた。  
「新しい鳩になれるまで  
そのままにしておくのだよ」

息子は  
私の考えを嫌い  
私に会いに来てすぐに帰ってしまふ。  
そう。おそらく私は「君主」  
息子は鳩のテープをとり  
自由にしてやった。

あなた方は私が怒り悲しんだと  
思うでしょうか  
そうではありません  
鳩の鳩が広く、青い空に飛翔していく理由も  
誰がそれを望むのか  
皆な同じ気持なのです



## 公園が生まれる

シ・パロス

今宵コゴノ草が燃える  
明日には巨大なトラクターが  
焼けあとの地ならしにやってくる  
美しいが私たちに無縁の公園を作るために  
破壊が必要とされる  
その公園の青写真の夢は  
ファーストレディの引き出しの中に  
——数年前ボブ・ケニーがここに来た  
——堀立小屋は化粧したヤシの葉ておい隠れた

そうとも 公園を作ろう！  
緑したたる美しい公園を  
私たちの疲れにかすんだ眼を癒すため。  
そして明日

立退きの命を受けた人々の  
不安と怒りの足音は  
トラクターの轟音とともに  
私たちの耳から消えないだろう

出典：BABAYLAN  
Issue No.1 1984 (Philippines)

付記

86年2月25日、マルコスがアメリカに亡命。20年にわたる  
マルコス独裁体制は崩壊し、アキノ新大統領が誕生してい  
る。



## お母さん——労働者の母へ——

チョン・ミヨンスク

忘れていません。  
綿ぼこりに埋れて  
疲れきった私たちに生命を吹き込んでくださった  
あなたの熱い熱い思いを。  
救いと天国は  
死の彼方にあるのでなく  
生きた生命の中にあると。  
私たちの意気を燃えあがらせてくださった  
あなたのこだまのような声を。  
宿命のように受けとめていた  
眠りこんでいた私たちの精神の中に  
開拓者精神と  
ほんとうの憤りを呼び起こしてください  
あなたの暖い声を覚えています  
お母さん。  
そのたびに お母さんは  
憤りと嘆きに胸を燃やし  
あなたもまたどこかへ閉じこめられましたね。  
糸くずからめられた私たちの魂を  
綿ぼこりに埋められた私たちの若さを  
機械の騒音に押しつぶされた私たちの胸を  
肺病や水虫や胃腸病に  
冒されてしまった私たちの肉体を、  
不死身のように燃えたとさせていた

あなたの力に満ちた雄弁の中に  
私たちは

いくたりかが解雇され、いくたりかは捕えられました。

今は事情が変わって

嫁いで、母親となったけれども

あなたの声

朗々たる余韻となって

私たちのくらしを導いてくれます

忘れないでね

私たちの痛ましい追憶を

忘れないでね

魂をひとつに寄せあつて声をあげたあの日の歓喜を

汚れた世の中

できそこないはできそこないを産み

闇は闇を産み

背信は背信を産んだが

私たちの希望は

あなたが植えてくださった良心のとうとうさ

私を守り

私たちを守り

この地を守ることを忘れないでね

あなたが老いて

この地の土となっても

私たちが残り

恨みもだえていることを忘れないでね

お母さん

私のお母さん

私たちのお母さん

労働者のお母さん 忘れないでね

〔訳者注〕

原題は「オモニ(母)」。この詩の中で労働者のお母さん、オモニとよびかけられているのは、おそらく、一九七〇年代後半に東一紡織(仁川)の女子労働者の運動の支援者であった都市産業宣教会の趙和順(チョ・フアスン)牧師であろう。一九七八年の東一紡織の組合妨害事件については、機関誌六号参照。

出典：『実践文学』4号

## 労働者の生活

チャン・ナムスク



自分の手で作った品物  
デパートにいったいだけど  
借間ぐらしの わが家には  
安売りの品ひとつない  
どうして このわが身  
労働者と生れて  
荒い世の波風の中  
さげすみと ひどい扱い受けるのか

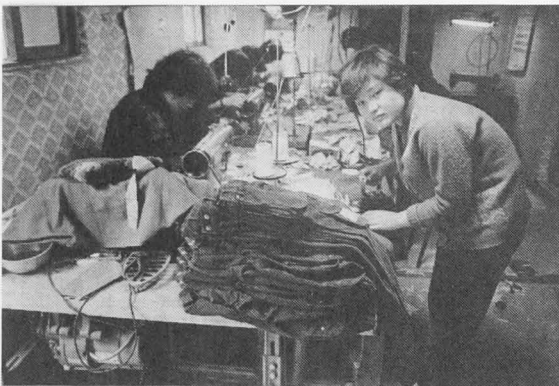
出典：『実践文学』4号

## 昼休みの春

キム・クムジャ

日差しがやわらぎ、  
みな ぼかぼかと暖いので  
赤やカーキ色の作業服が集まって  
四〇分間を楽しむ  
私はそのまま立っているのがもったいなくて  
友だちと正門まで歩く  
風もさわやかだ  
腰をかかめて、芝生を見る  
まだ緑の芽は見えないが  
冬の、黄色く枯れた葉はもう見えない  
本当に春が来たんだな  
向かいの会社の作業服姿の男たちが  
塀にもたれて たばこをふかしているのが見える  
あの人たちも、私たちのように  
数分間の春を楽しんでいるのだな

出典：『実践文学』4号



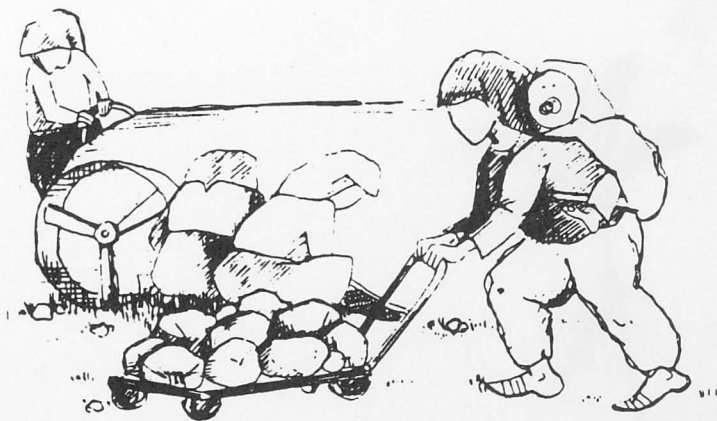
## 韓国 民主人権を求めて

七〇年代後半、韓国では若い女子労働者たちが、労働組合運動を通して、自分たちが労働者であり、人間であることに目ざめて、たちあがった。

また、学園の民主化闘争のなかで、女子学生たちも、デモやバリケードに参加した。いま、その女たちは自ら語り、書きはじめた。民衆が文学をつくり出すようになったのである。

女たちの働く労働現場の状況はきびしく、また家にあっても、儒教文化の影響による男尊女卑の思想はまだ根強く残っている。だがひとたび解放への道を歩み始めた女たちは、夜明けのやみがまだ深い中にも、未来をめざして歩き続ける。

ここに紹介した詩は、工場で働く現場の労働者の作品である。米資系の会社コントロー・データーの争議の中で、こどもを流産させた女子労働者の悲しみ、八時間労働をめざす女たちの戦いがその背景にある。





## 笠を編む

嶋岡晨さんへの返事

陳 秀喜

台湾の地形は  
海に漂っている揺籃だ  
殖民された人達の  
血と涙のにおい  
中国人の乳のにおい  
中国人の尿のにおいが  
強く沁みている揺籃だ  
異族日本の子守歌を  
強いて聴かされたけど  
体の中にこびり着いたのは  
揺籃のにおいだけだ  
始めて台湾に来られた  
日本詩人嶋岡 晨さん  
虹はきれいな役者  
鉛色の空は舞台  
あなたはなぜ人並みに  
虹を讀まないで  
舞台裏を覗き  
眉をひそめるの？  
どの国の虹も儚い  
素朴な空に  
心を寄せて  
「喩え、ガラガラ声でも  
唱わなくては」と、

詩で励ましてくれた

隣国の詩人

良知ある兄弟よ ありがとう

空襲警報が

潔きよく死んだ日

一九四五年八月十五日

私達は爆竹を鳴らし

涙で頬を濡らし

祖国に還った喜びを

祖先に告げた

国籍をとりもどしたけど

統治者に祖国の文化を

半世紀絶たれた苦痛が

待っていた

喜びに血が沸き騰ったけれど

筆舌で表現出来ない戸惑い

熱血は冷血と思われた

焦りと苦悩

私たちは言語の鉄柵の前で啜り泣いた

詩を書く為に中国語を習い

陣痛に耐えた

死産児を破り捨て

身悶えたこともあった

詩の国の文化は

殖民された私たちには

岩石より重たい

啞のような口

唱えない恥

私たちは殖民されたのを

先祖と揺籃に詫びたい

木船で海を渡って

台湾を開拓した

祖先たちの勇敢さに比べたら

殖民されたのは恥だ

この恥を償うために

わたしは笠をかぶって

黙々と耕している

ふたつの国の歴史に

生きて来た悲哀

殖民の悲哀は

再び演じてはならない

この代で終止符だ

詩園の片隅に

わたしは笠を編んでいる

手指に血が滲んでも続ける

次の世代の人たちに

人魚の歌声で唱えるように

揺籃は小さなものを大きく育てる

願わくは 自由と平和が

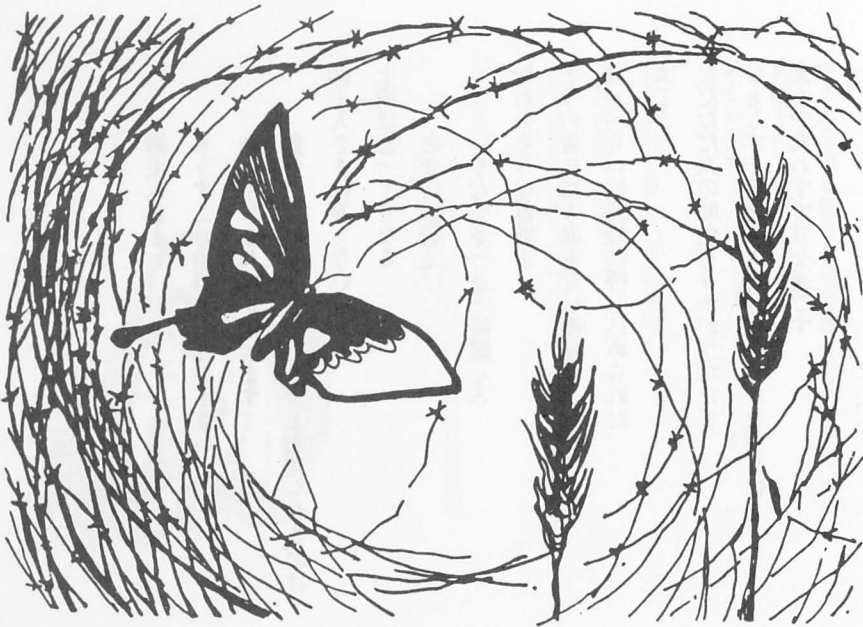
揺籃から成長すると好い

握手した腕が地上に転んでも

詩心で結ばう

FORMOSAは宝島だ

自由と平和の誓だ



今日もわたしは編んでいる

人魚のような声で唱えるように

若者たちのために

笠を

出典…『台湾現代詩集』北原政吉編  
もぐら書房刊 一九七九年

台湾

日本の植民地だった

日本は台湾を一八九五年より植民地とし、敗戦までの五十二年間、「フオルモサ(美麗島)」とよばれた豊かな台湾から、砂糖や米などを中心に多大な経済的利益を得た。また、日本語使用を強制された台湾の人々は戦後日本語から解放されても、自分たちの言語「中国語」をとりもどす闘いを開始しなければならなかった。

解放から四年たった一九四九年、大陸から逃げてきた国民党は、台湾に戒厳令を施行し、独裁体制をとった。六〇年代にはいつてからは、アジアにおけるNICsのトップランナーとして工業化を開始した。六五年には高雄に輸出加工区(EPZ)を作り、日本などの外資を導入し繊維・電子といった輸出指向型産業を発展させ、驚異的な経済成長の原動力とした。工業化の成功の裏には、労働運動を極端に規制し、賃金を低くおさえることで国際価格競争に勝つことができたという背景がある。

農業国から工業国への転換は、人口一九〇〇万人の半数を占める女性にも大きな変化を与えた。教育の普及、出生率の低下、高齢化などの現象に加え、生きがいをもとめる主婦の問題も表面化してきている。

女子労働者のうち十七パーセントが、第一次産業である農業に、工場労働者などの第二



次産業に四三パーセント、サービス業に四〇パーセントという割合で就業している。工業化の初期には、農村出身の小・中卒の若年女子労働者が、家計補助や兄弟の学費のために工場に働いていたが、最近では若年女子労働者は人手不足の傾向にあり、高学歴化もあって工場よりはデパートなどのサービス業やオフィスの事務員として働いている。しかし、性別役割分業、賃金差別、結婚退職の強要などの性差別もひどく、M字型雇用をしめしている。

国民党政府の女性政策は、「女性も家庭に」という中国の伝統的価値観にもとづいたもので、言論の自由がない政治状況も、女性の意識化をさまたげている。しかし、台湾の女性の要求もあり、八四年には優生保健法・労働基準法の改正が議会を通過するなど、女性の法的地位の是正も行われつつある。



## 外資工場の女子労働者のうた

(台湾楠梓加工区)

台湾の地に建ってはいても  
台湾人の工場ではない  
かれらは日本からやってきた  
横浜から  
寒い島国から  
つやつやした白い顔に  
先進国の驕慢をみなぎらせ  
泰山庄する勢いで  
峨山省が群山を睥睨するごとく  
きいっと監視し  
たった一秒も  
休むことさえ許さない  
仕事ひとつ  
ほんの小さなあやまちさえも許さない

御主人さま  
もうすこし給料をあげて下さい  
あまりにもわずかすぎます  
食うや食わずの生活をやっと支えられるだけ  
御主人さまは答えない  
上役は怒ってどなる  
命令には服従だ  
いやならさっさと辞職しろ  
かわいそうな尊厳よ  
とうの昔に血も涙もない機械にこなごなだ  
薄っぺらい給料袋に押し込められた  
女工よ  
ただただ人の顔色をうかがうだけで  
ひとしずくの血の汗だけがわずかなもうけ  
食うや食わずで日を過ごす



## 女—創造主は誰

つくりぬし

痛みと苦悩の中から私はこの世に生み落された  
ぬくもりと安らぎは失われた——永遠に！  
父の怒りと責めが母と私をおびえさす  
「お・ん・な」 糞つたれ！  
男たちは私にただ一つの役割を課す  
父、兄、村への奴隷としての従順と献身  
それでも新しい生活の訪れという希望はあった  
救世主—夫—という夢を育んで

「Thali」が解放と新しい生命をもたらす  
私は無邪気に思った  
しかしそれは以前よりもっと束縛を強め  
妻という二〇トンの石のついた鎖につながれた  
世俗的な声が聞えてくる  
「おとなしくしていたほうがいい」

痛みの中でいきみながら生命を押し出す  
医者は落胆をかくさずに言う「女の子ですよ」  
「お・ん・な」外でうなる夫の声  
私はその声におののく  
私自身—はるか昔に死んだ—のためではなく  
同じ道を歩むだろう子のために  
女であることの変ることのない傷みのために

## 新しい女

茶を摘むやさしいその手は  
いま暗闇をはらうのに役立つ  
邪悪なものを打ち破り  
新しい人生を求めるためにこぶしが高くかけられる  
茶を摘むやさしいその手は  
いまあらゆる善きものを育くむために役立つ  
貧困という雑草を引き抜き  
新しい芸術と文化をもたらすために働く

茶を摘むやさしいその手は  
人類の新しい道を示す  
真実と正義を見出す建物の建設のために働く

出典：VOICE OF WOMEN No. 6  
SRI LANKAN JOURNAL FOR WOMEN'S  
LIBERATION, June 1983



## スリランカ 茶摘み労働に身をすりへらして

インド亜大陸の東南にある島国スリランカは、人口一五〇〇万人の仏教国だが、シンハラ人と少数派のタミール人との間の人種紛争に揺れている。戦後英国植民地から独立し、社会主義路線をとり、バンダラナイケ女史が世界で初めての女性首相になったが、七七年、ジャヤワルデナ政権にとって代わり、資本主義的開発政策を進めている。

女性の地位はインドなど周辺の南アジア諸国に比べてかなり高く、女性の識字率も八割を超えている。女性の平均寿命も七〇歳と比較的長い。しかし、女性が直面している問題は多い。最大の外貨収入源である紅茶やコーヒーなどのプランテーションに働く女性は三〇万を超え、女子労働者の半数近くを占めるが、ほとんどがタミール人で、貧困、文盲、病気、虐待などに苦しめられている。

現政権の工業化政策で、多国籍企業を誘致して輸出加工品が作られ、縫製工場などに多数の女子労働者が雇われている。低賃金、長時間労働、職業病、性的被害などが彼女たちの悩みである。さらに、中近東などへ海外出かせぎに行く女性たちもふえており、その職種はメイドが圧倒的に多い。賃金不払いから、レイプ、あるいは売春強要など深刻なトラブルに会うケースが社会問題になっている。豊かな文化的伝統を誇るスリランカだが、国際的に見てもきわめて低い賃金水準ゆえに女性たちは男性よりさらに搾取されているのだ。





## いざゆかん、女たちのもとへ

——そこに団結が始まる

マダブ・チャパン

ヘコーラス

祖国の女たち 母 姉 妹のもとに

行こう 語ろう

力を合わせ 闘いを始めよう

この牢獄を打ち破れ!

この牢獄——

壁には娘や嫁の屍が生き埋めにされている

冷酷な法の網で織りなされた奴隷の巢

この牢獄の中で囚われたまま

私たちはもはや死にはしない

この牢獄——

石に宗教の歌が記されたこの牢獄

一つ一つ石をとりこわし 破壊の種をまきながら

私たちの仕事の成果をとり入れよう

首根っこをつかまえ、その顔を地につけ

私たちが失なったものをとり返そう!

この牢獄——

一枚一枚の煉瓦が私たちの大地の泥でつくられている

村に酒をもちこみ、麻薬を売り

人々から力を奪った

私たちは酒を追放し、前進し、失なった土地を

奪い返そう

この牢獄——

壁には——裁判官と聖職者——がすわっている

手には鍵 肩には棒をもった

金権主義の男たちと王の寄生物

不可触民 寺院売春婦 仏教徒

そして土着民 皆な闘いの前線に集まろう!

祖国の女たち 母 姉 妹のもとに

行こう 語ろう

力を合わせ 闘いを始めよう

この牢獄を打ち破れ!

【注】インドカースト制度の中で不可触賤民として底辺で差別を受けた人々に呼びかけている

出典: We Will Smash This Prison!

By Gail Omvedt

1980 India published by 2ed Press, London



## インド 性差別の苦しみの中で

人口七億を越える大国インドは、偉大な文明を築いた歴史を持ちながら、貧困からの脱出に苦悶する矛盾に満ちた国である。ヒンズー教徒が八割を占め、今なおカースト制度が根強く残っている。このため女性首相が出るなど上層カーストに属する支配階級の女性は日本では考えられないぐらい社会的に活躍しているが、大多数を占める低いカーストまたは不可触民、少数民族の女性は、想像を絶する差別抑圧に苦しんでいる。



女の子が生まれると呪われた存在だとし、死ぬにまかせたり、育っても栄養失調早婚、過重労働などで早死にするため、女性の方が二千万人も少なく、人口の中の男性千人に対する女性の割合は九百三十人余りという異常さである。

インドではここ二、三年、人種暴動でたびたび血が流され暴力に支配されているが、女性に対する暴力も深刻な問題になっている。一つは、ダウリー(持参金)殺人の頻発である。女性が結婚するとき婚家から多額のダウリーを要求され、それに応じられないと、その花嫁が夫や姑にガソリンで焼き殺されたり、焼身自殺に追い込まれたりするのだ。ニューデリー地区だけで年に六百人もの女性がダウリーをめぐる命を失うというすさまじさである。多くの場合事故か自殺として処理され、実際に焼殺した場合でも加害者は証拠不十分

## 読み書きできない女の哀歌

私は四〇歳前後と人は言う

知っているのは耳を通したことだけ

目に映るもの 木々 空 わが子 食物 わずかな労賃

ここまでは他の人たちと同じ

みんなに見えるものは私にも見える

ただ一つ大切なものをのぞいて

それは読み書きの文字

私にとってつらく悲しい秘密

手紙を出すとき 十歳の息子がそれを書く

息子が私の言うとおりに書いたかどうか

神様しかわからない

私の顔は何も教えられたことがなかった

ただ私の手と背中と足は私の上を歩く人々の

命令に従うように訓練された

なにもかも奪われたまま生を受け

汚らわしい無学に縛られたまま

飢えたまま死んでいく

他にどんな世界があるかも知ることなく

月末には労賃を受取り、私の右の親指で

不鮮明な母印を押す

この親指が他の人の親指とこんなにも違うことが

私にとって永遠の謎



母印を押すのがはざかしい  
背後で誇らしげに自分の名前をサインする人々が私を嘲り笑う  
親指を読める人はいない  
わたしは誓った  
子どもたちには決してこのような半生を送らせまいと  
わたしは子どもたちが歩き出すと直ちに学校に入れた  
わたしには読み書きを学ぶ時間がない  
わたしは息子たちが陽にあたるのを見るために  
今のままであることに耐え  
それで満足しよう  
息子たちの技能が報いられ  
力強く道を歩むとき  
息子たちの心の中に母親の姿が共にあることを望もう

出典: NFE:WID, Exchange Asia

UPLB, April-June 1983

て罰せられないことが多い。そのために、新妻を殺して、再婚の相手からまたダウリーを請求するといった信じられないことが起っているのだ。  
もうひとつ、インドの女性たちが闘っているのがレイプ(強姦)である。(機関誌九号参照)警官とか、女性を保護すべき立場にある男性が加害者になるケースも多く、犯人がなかなか罪に問われないことが問題とされている。  
さらに深刻なのは売春である。世界でも屈指といわれる大規模なボンベイの赤線地帯には、国内各地からだまされたり、誘拐されたり、暴力的に脅されたりして送り込まれた女性たちが日本の昔の廓同然の奴隷的状況で性的搾取を受けている。近年は隣国ネパールからだまされて連れて来られた女性が激増し、ボンベイの売春婦の半数を占めるというゆゆしい事態になっている。しかも、低年齢の女性たちが多く、明らかに人権侵害が行われているのだ。そのほか、ヒンズーのある神様に尼僧として娘を捧げるデバダシ制度が続いているが、これは捧げられた少女が僧侶や信徒の男性に性サービスさせられる寺院売春以外の何ものでもない。  
インドの女性解放運動は各地に拡がって、これらの女性に対する暴力をなくすキャンペーンが続いている。それは、儒教思想に似た「女は子どものときは父に、成長したら夫に、夫を失ったら息子に従え」というヒンズーの教えに挑戦することなのだ。こうした伝統文化が現在に持ち込んでいる女性差別思想、家長制との闘いと同時に、第三世界の女性として直面している貧困、それをもたらす経済社会体制との闘いがインド各地で行われている。



## レイプ Rape された女

### ——三年のちの話

Rape

四つのさびしい文字をつなぎあわせた  
一つのことばに

心はこの上なく傷つく

あの光景は甦えり 記憶を呼び醒ます

一つのことばに

私の力は消え失せる

それがどんなものか

屈辱的で 卑劣であるかを私は知っている

しかし嫌悪と不安と統制できない恐怖心を

表わすフレーズを私は知らない

わかっていても人には言えない

そう、恥ずかしがるのは間違っているわかつているのに

——男社会は私を意のままに育ててきた

そして私は恥じる

男のこぶしが私の顔をなぐったことを恥じりながら

男の指が私の首にふれたのを知りながら

私は罪を犯してきた

ただ生きていたというだけで男の攻撃の対象とされた。

生きていかなかったら

夜道を歩くこともなかった

——素朴に自由の存在を信じていた

そのことで私は今自分を苦しめる

男社会の中で女であることは「間違っている」である

それは女を「雌犬」「雌猫」同然の存在にする

傷つけられ ながられ 血のにじんだ

私の肉体を見る医者を

私は恐怖心を抱きながらみつめていたことを

彼は知っていただろうか

## 二人の女

(アーメッドバード十一月三〇日(PTT)発)

二人の幼友達ジョツナとシャシュリーは結婚後一年もた  
ずして離れ離れの生活に耐えられず命を絶った。走ってくる  
列車に二人は身を投げた。グランヒグラム駅の近くで切斷さ  
れた遺体は警察の手で拾われる。二人の手による遺書は自殺  
への女たちの決意を物語る。

外国のことでもなく

夢でもなく

とある小さな町の 曲がった線路を

列車が通過するとき その生命を絶った

なんと勇氣ある行為

こんな時代にあんな場所

インドの空は決して快くその声を聞いてくれない

というのに

あなたたちは受け容れられないことを

勇氣をふるい 愛をうたった

惧れずに愛し その愛は永遠に絶えない

信じたがい

そう、真実は理解しがたい

あなたたち——マイ シスターズ!

「あたりまえなこと」「正常」と運命づけられたものに

死を賭けて闘った

私のお父さん——すべての男  
なぜ彼らは私の痛みがわからないのか?  
慰められることを私は必要としていたのか?  
その男たちは盲目なのか  
ささいな犯罪に同情を期待するのは  
それとも私が神経症なのか  
長いあいだ耐えた恐怖をこうして書き記すこと  
私がこたわりすぎるのか

「感じやすい娘だね 一、三日すればよくなるよ」  
医者(男)の発したことは  
三年たった今も

私は夜外出てきない

男たちがどこにいても身を隠し 待伏せているのが

見えるから

私にふれる彼らの手を感じるから

男たちの眼が私をむきざり 脅し

冷たい刃が私の膚につきつけられるのを感じるから

いまだにその記憶は生々しいけれど

苦痛は少しずつ柔いていく

ただ声に出せず

沈黙の中で苦しんでる他の女たちを思うと

心が痛む

眠れぬ夜

眼に涙をうかべ

男たちの暴力を強いられながら

孤独に傷をうずかせる

その痛みを私はよく知っている

その時男たちの巨大で 残忍で 攻撃的行為や

犯罪を笑いながら語る声が聞えてくる

出典: ASIAN WOMANHOOD

ASIAN STUDENTS ASSOCIATION

DECEMBER 1984 SINGAPORE



うちのめされ

押えつけられ

飢え

切り刻まれて空気を求めては這い上がった

「適応」「受容」を拒み

心の拷問の部屋でもがき

墮落と絶望を超え舞い上った

マイ シスターズ!

言葉をかわしたことのないマイ シスターズ!

あなたたちの選択を

私は悲しめばいいのか 喜べばいいのか

どこにでもいる 通りの女たちの顔にあるあなたたち

私たちのまなざしと

狂気と痛みに縛られ

世男が正気にかえることを待ちこがれていた

あなたたちの強さを私はここに記す

出典: MANUSHI No. 5 (MAY-JUNE '80)

India





## 自由に向かつて

しっかりと立とう、人として  
女と女が手をつなぎ  
前を見つめ  
共に歩もう

男は女に生命の芽をふきこむ。  
女は孕む

仕事に汗を流し  
子宮から生命の神秘を産みおとす  
しっかりと立とう 人として  
仕事に荒れた女の手をとり  
足をひきずる女を励まそう

あごをあげ  
何世紀にもわたる不幸と苦しみの中で  
たわめられた肩を正し

男は女の手をとり 唇にあてる  
かがみこみ 女の乱れた髪をかきあげる  
女は目を開く

絶望の影をとりはらい  
眼深く見つめよう

女も男もしっかり立とう 人として  
確かめあおう 人はみな平等だということを

出典：Women's Action Forum  
Lahore  
Newsletter 6 (July 1984—Jun 1985)

## 声なき声

キラン オマール

厚きヴェールをつきぬけてくる  
きつく しめつけられた  
女たちの声なき声 叫び 呻き  
閉ざされた扉 窓を強打する  
“私たちの声を聞いてほしい”

しかし はじき返されるのみ  
傷つき ふるえるノド  
閉じ込められ 苦痛の中で  
流す涙も渴いている

名もなき女たちの暗闇は果しくつづく  
女たちの恐ろしいほどの苦役はつづく  
傷つき ひび割れた女たちの手が労働の灯りで光る

薪束の煙の向こうから  
女たちの無言の眼が  
抑圧の中で  
聞いてほしいと輝いている

声なき声  
無言の聞こえない声がクレシェンドになり  
名もなき女たちのヴェールを引き裂く

出典：Women's Action Forum  
Lahore  
Newsletter 5 (Jun 1983—June 1984)

## ベトナムの姉妹に捧ぐ

友よ 目をさましなさい  
悪夢は去った

友よ あなたはよみ返った  
電気イス 突き刺さるギリ 鋭利なナイフ 燃える炎  
それらも 勇敢な少女よ

あなたの心を殺せなかった  
血の一滴をもった偉大なあなたの心  
再び鼓動しはじめる

あなただけのためではなく  
正義のため 故郷のため 祖国のため 人類のため  
再びそれは鼓動する

死の淵からあなたは私たちのもとへ生還した  
祖国に召されて征ったあの日と同じように  
いきいきと輝いて

世界中があなたを抱擁する  
世界中の肉体の肉体として  
世界中の血の血として  
あなたたちは勝利した  
よみがえった

出典：BALAI WOMEN IN ASIA  
Volume II, No.4  
December 1981 Philippines



## パキスタン イスラムのくびき重く

九千万人近い人口を擁するイスラム国家パキスタンは、七七年の軍事クーデターで政権を握ったハク大統領が最近まで戒厳令をしいて強権政治を行ってきた。ハク政権は政治的弾圧だけでなく、イスラム化政策——つまりイスラム教を昔のように厳格に守れと命じ、とくに女性を「チャドル（ベール）」と「チャドルワリ（四方の壁）」に押しもどそうというのだ。具体的には法律改正が次々と打ち出された。ムチ打ち刑や石打ち刑などの中世的な刑罰を復活させ、強姦に姦通罪を適用——つまり四人の証人がないと証拠不十分として強姦と見なさない、しかし、女性は妊娠という形で証拠があるとされて強姦犯人が罰せられず被害女性が刑を受けるというイスラム刑法が七九年に作られた。

二番目は証言法で、法廷で証言する場合、男性一人の証言に対して女性二人を必要とする、まさに女性を半人前扱いする時代に逆行する法律が制定されようとした。

第三のイスラム法は殺人傷害被害者補償法で、殺人や傷害の証言者が女性ならば傷害補償金は男性の半分か支払われぬ。しかし、女性が加害者なら男性と同額払うという男女不平等もはなはだしい法律だ。

そして最後にもう一つ、深刻きわまりないのが家族法改悪問題だ。もともと六一年にこの法律が制定されるまでにはイスラム保守派から大変な抵抗があった。しかし、児童婚（男十八歳以上、女十六歳以上）は正、結婚登録義務づけ、一夫多妻制限、離婚の不平等などは一定の進歩的な内容だった。このため制定後もイスラム正統派は施行を妨害し、たえず改正を要求していた。ハク政権になってからロビー活動を一段と強め、政府もそれに応じて再検討を約束した。パキスタンの女性たちが獲得したささやかな権利を再びとり上げようとしているのだ。

こうした一連のイスラム化政策に、脅威を感じた女性たちは女性行動フォーラム（WA

F）を全国主要都市に作り、戒厳令下で禁止されているデモを強行したり、投獄や重傷にもくじけず果敢に闘っている。

ただこうした女性解放の闘いに参加しているのは教育を受けたひとりの女性たちで、九〇％以上の文盲の女性たちは、ベールをかぶって日々生きるために苦闘している。

## ベトナム 戦争の傷あと深く

文学作品で見る限り、近年のベトナムでは女をめぐる問題が露出してきている。夫婦の不和、離婚、恋人の背信、未婚の母……、そのいずれにも、三〇年の長きにわたったベトナム戦争が影を落としている。

男が戦線に出ている間、女は後方を守り、あるいは自身も銃をとって戦った。戦争が終わって、家族が、かつての恋人同士が再会を遂げた。戦時中には目を向ける必要も余裕もなかった粗相が、いま顕在化している。戦争中は民族解放の大義の下に、ひたすら耐えることが美德とされてきたが、平和を迎えて十年を経た今、物質的豊かさを求める全体の風潮とも相まって、女めぐる様々な問題





## クオック・フォンを偲ぶ

(T・A夫人に捧ぐ)

ラム・ティ・ミイ・ザ

今も毎日ご飯をよそる  
そしてすすめる あなたが生きていた日と同じように  
ぽっかり空いた椅子に一膳の箸  
そんな彼女を見つめて私の心は乱れる

あなたの一生は長き二つの戦いとともに過ぎた  
あまねく祖国に歌声を響かせた  
歌声に託されたあなたの心を  
胸の奥深く彼女は受け止めた

あなたは人民の芸術家  
あなたの歌声は宝  
暖かきそのバスの響きは  
どれだけの人々に自信と希望を与えたことか

あなたはもういない クオック・フォンよ

アン・フォンは父に向かって今も毎朝顔を下げる  
写真のあなたは笑っている、  
口元に穏やかな笑みを浮かべて  
あなたの歌声は季節と共に巡る

その歌声はあなたをさがし求める  
青き空の果て、深き地の限りまでも  
静寂の中に歌声は遠くなる  
今は亡き歌声の主を偲ぶ……

一九八四年六月二日

ホーチミン市にて

出典：『香河』一九八四年九月号 訳：加藤則夫



が、文学の中で卒直に表現されるようになった。  
だがこのことは、一人の女の問題にとどまるものではない。それはベトナムが社会主義国として独立を達成した後に出てくる問題、即ち、今度は自国の民一人一人の自由と解放をいかにして保証するかという問題でもある。そうした意味では、ベトナムの女の問題は、ベトナム民族全体の今後とるべき方向性の問題でもあるのだ。

## 叔母さんと女友達

グエン・ティ・ホン・ガット

ちようど四〇を迎えたばかり  
叔母さんはもう若くない  
もともと小柄な女だが  
家の広さは目立つばかり……

婚期を逸した女たちが  
気持ちを打ち明けにやって来て  
足乗せ合って一緒に眠る  
外の雨など構わずに

訪う人あれば 誰の友でも  
寄り集まって一緒にもてなす  
稲穂の実る頃ともなれば  
誘いあわせて刈りに行く

仕事のひまな三月には  
叔母さんは子供の世話をひきつける  
小さい子らの世話をする  
《だって兵隊さんの子ですもの》

悪童どもは喧嘩になると  
叔母さんが言いつける  
子供ら 服が破れれば  
叔母さん繕い つぎ当てる

ちようど四〇を迎えたばかり

戦さに出た人 帰って来ない  
私の村は女ばかり

叔母さんがして下さる晴らす

来る日も来る日も夜更けまで

叔母さんちつとも眠れない

他の女たちとて同じこと

ただ身を横たえて夜をすごす

夜も明けきらぬ朝まだき

みんな野良に出払った

今は田植えのまつ盛り

一緒にしゃべって下さる晴らす……

一九八四年 テト

出典：『文芸』一九八五年二月三日号 訳：加藤栄





貧富の格差の拡大のなかで、上流階級の女たちを皮肉ったのが、次の歌である。この歌はコーラグループ「ビンボー」が歌ったものだが、一九七七年末、放送・放映禁止になっている。

## スノおばさんスノおばさん

### 可愛いおばさん

ビンボー

スノおばさん スノおばさん 可愛いおばさん  
毎朝 懸命に体操  
昼までゴルフ

そして牛乳風呂を浴びに美容院

スノおばさん スノおばさん 頑張り屋のおばさん  
あらゆる会合に、いろんな無尽に

朝、昼、晩、余す時もなく

スノおばさん スノおばさん 良い手本のおばさん

エメラルド ダイヤ 砂利 鉄骨までも

みんな彼女のビジネス

政商、華人の旦那、局長、ブローカー

みんなスノおばさんに跪く

スノおばさん スノおばさん かつこいいおばさん

困難など決して感じない

にこやかに微笑み

左右の老いも若きも惹きつける

スノおばさん スノおばさん

出典：カセット・テープ “Bimbo 10 Tahun” より

## 女性解放

ロマ・イラマ

女たちは今、闘いのなかにある

いろんな分野で男と競いあっている

家で 事務所 行政のなかでも……

もちろん、女の役割、それは開発には必要だ

だが、女の役割ア—ア—ア

度をこしてはいけない

もし、女の役割 ア—ア—ア

その役割をこせば

ゆきすぎは危険だ

女と男は同じだったことはない

自然の摂理によって 男女の役割はちがっている

男と女の精神と肉体も

全能の神は定めている

女は子を産むように定められている

これは弱さのあらわれ そうじゃないかね

女は人類の母 父親のようにふるまってはいけない

男は女の指導者

この世の暮しの場において

それが 創造神の定めたもの

どうして それを変えようとするの

神の定めを変えたなら 必ず不調和が生まれてくる

ほら 事務所にあふれる女たちよ

あなたたちのお陰で多くの男が失業している

(以下略)

開発政策を批判し、社会的不公平に対して大胆に表現するロマ・イラマが、「女性解放」を歌った最新のテープが届いた。「国連婦人の十年」の最終年にあたり、インドネシアの国民的歌手ともいべき彼女が、女性解放を声高らかに歌ったものだと思つて、早速聞いてみた。

その歌詞のごく一部が前記の詞である。この「女性解

「ビンボー」は敬けんなイスラム教徒だが、ロマ・イラマもまた熱心なイスラム信者である。一九七八年三月の国民協議会(MPR)におけるスハルト大統領選挙に圧力をかけるために都市の知識人・学生はたちあがった。ロマ・イラマも『基本的人権』という歌を歌って、きわめて直裁に権力政治を批判した。この歌は、七七年末に放送・放映が禁止されている。

## 基本的人権

ロマ・イラマ

基本的人権を尊ぼう

なぜなら人間の義務

我々はすべて選ぶ自由がある

好きな生きる道を

神様でさえ その下僕が何をするか強制しない

パンチャシラ民主主義を私たちの国の土台として

礎えよう

国民の自由を勝手に奪うな

なぜなら それは人間性に反することだからだ

信仰の自由 それは基本的人権

発言の自由 それは基本的人権

私たちはすべてのことをする自由がある

パンチャシラに反しないかぎり

放」とは似ても似つかない歌詞が、彼の最新カセットのA面トップに収録されている。インドの影響を受けたダンドウットの軽快なリズムにあわせて、こんな説教調の歌詞が流れる。

ロマ・イラマの歌で、イスラム教の女性解放に対する考え方を代表させることは一方的かもしれない。だが、一九七四年「インドネシア共和国婚姻に関する法律」が制定される過程でも、イスラム教と女性運動との間に多くの葛藤があった。インドネシアの女性解放運動にとって、イスラム教との闘いが重くのしかかっている。

もともと「一九四五年憲法」では、男女平等がうたわれている。だが、先に成立した婚姻法では、原則として一夫一婦制を唱えながら、裁判所の許可があれば「一人以上の妻をもつこと」を認めたのである。女性団体とイスラム教の妥協の産物が、こうした形の婚姻法をつくりあげたのである。九〇％近くがイスラム教徒であるインドネシアで、女性の問題を考える時、宗教の影響を無視することは出来ない。特に、イラン革命後は、イスラムの復権が著しい。

開発がすすむなかで、社会的不公平は拡大し、貧しい者がますます貧しくなっている。貧しい者にとって「解放」への歩みはまだまだ遠い。女性解放の道のりはさらに遠い。

だが、一九六五年の九月三〇日事件から二〇余年を経た今日、新たな胎動が始まっているようだ。甘い恋の歌ばかりが目立つ女流詩人の詩のなかに、闘う女たちの姿が登場する日もさほど遠くないだろう。その時、ロマ・イラマにかわって、闘う女たちの手で新たな「女性解放」の歌が作り出され歌われていくだろう。その日がいつ訪れるのだろうか。

(内海愛子)

## インドネシア 開発が進む中で

二〇〇をこえる民族が共に暮らし、多様な文化を共存させているインドネシアで、女性の地位を一般的に論ずることはむずかしい。例えば、母系制のミナンカバウ人、父系制のバタック人、双系制のスンダ人、ジャワ人といたように、家督相続のありよう一つをとっても多様である。「多様性の統一」、それがインドネシアの掲げる国是となっている。

一九四五年八月一七日の独立宣言から三年余にわたる独立戦争、四九年十二月のオランダ主権委譲による完全独立と、インドネシア共和国は、三五〇年に及ぶオランダの植民地支配、三年半にわたる日本軍政ののちに、国づくりをはじめたばかりである。しかも、一

九六五年九月三〇日事件（インドネシア共産党によるクーデター未遂事件といわれている）によって、五〇万とも一〇〇万人ともいわれる人たちが虐殺された。女性解放の運動は民族独立運動と歩みを共にしてきたが、九・三〇事件後の弾圧によって、女の運動も大きく後退。現在は、スハルト政府の後押しによる「ダルマ・ワニタ」と呼ばれる婦人運動があるが、これは公務員を中心とした翼賛団体「ゴルカール（職能グループ）」の婦人版ともいえるべき性格の運動である。

九月三〇日事件以後のインドネシア共産党弾圧から二〇年、新たな運動のきざしは、いまなお明らかになっていない。政権批判がきびしく押えられているインドネシアの民衆は、歌や慢才のなかに鋭い政府批判を織りこめます。「沈黙の時代」に政府・社会矛盾を民衆は自分たちの言葉で闊達に表現している。詩より、民衆の間に歌い、聞かれていた大衆的の歌のなかに、そうした鋭い言葉の多くを見出す。こうした歌の媒介がカセットテープであり、それをかなてる機械が日本製ラジカセであるのもまた皮肉である。





## タイの二人の女性の身上話

### オラタイ(27歳)——性を売る

私はタイの東北部コラートから来ました。名前はオラタイです。父は、ウボンとコラートの米軍キャンプで守衛をしていました。父が二番目の妻を連れてきてから、家の中がすくもめるようになりました。私は九人兄弟の一番上です。学校に行ったことはありません。

十歳の時、二バツ(約十四円)稼ぐために、大きな水がめ七杯に、水を満杯にする仕事を必死にやりました。とてもつらい仕事でした。

十二歳の時、家主に強姦されました。警察に届けたんですが、家族に脅しがかかったので、それ以上追及できませんでした。父は私が強姦されたということに私をひどく憎みました。

私が十五歳の時、父が家を出てしまいました。家にはお金がなく、家族みんなとてもひどい思いをしました。だから私はお金を得るために、時々男と寝るようになりました。初めて一〇〇バツ(七百円)稼いだ時、大金だったので手に入れたのかと母に聞かれました。私はほんとうのことを話しました。子どもたちも私も腹をすかせているんだから、そうしなければいけなかったんです。

この頃、父は家に戻っており父の二番目の妻のこととしてしつこくケンカをしました。私は父に、「私が母の面倒をみるから出て行って」といいました。

十七歳の時、私はコラートに駐屯している米軍G Iの雇われ妻になって、三年間一緒に暮らしました。彼がコラートを離れる時、私は家で使っていた物をいくつかもらって母にやりました。

二十一歳で、私は他のG Iの雇われ妻になったんですが、彼が軍隊を出たので、いっしょにバンコクに移りました。彼は三年半私と暮らした後、母に七万バ

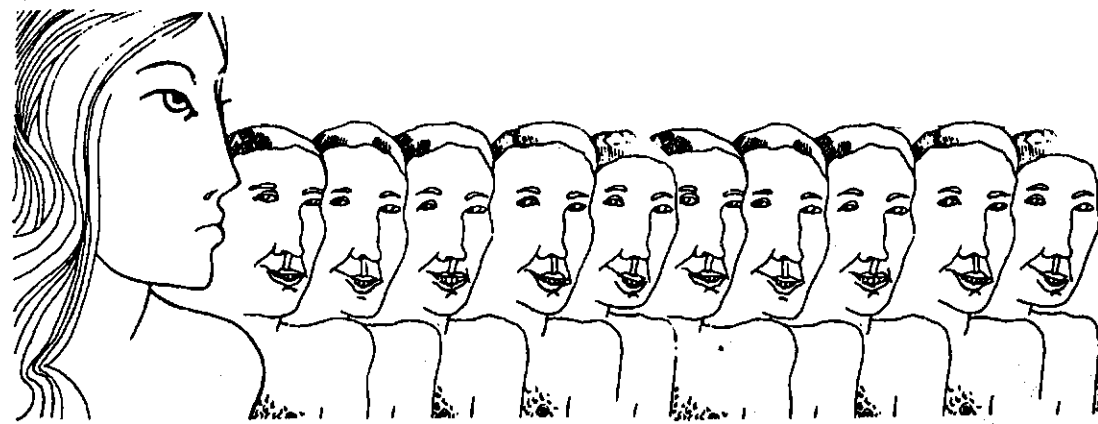
ツ(四九万円)の家を買ってくれました。そのあとすぐ、私は彼と別れました。彼のセックスがすごく乱暴で、がまんできなくなりました。それまで私は三回も子宮の感染症にかかってしまって病院で治療を受けていたんです。

でも、私は母に家を買ってやったことをすごく自慢に思っているし、とても嬉しいんです。私は雇われ妻だったけれど、私のしたことを家族や近所の人たちがほめてくれたのが忘れられません。

その後、私はゴーゴー・ダンサーになって二年程パッポン(たくさんのバーがあるところ)で働いたり、観光地のパタヤで働いたりしました。でも、売春もやっていて、客と寝て五〇〇バツ(二千五百円)もらっていました。パッポンでは、一カ月二四〇〇バツ(一万六千八百円)と普通の値段のドリンク料を稼いでいました。

二六歳の時、グレイスホテルで自由契約の売春婦になりました。客は西ドイツ、スイス、サウジアラビアからきた人がほとんどでした。アラブ人は金払いが一番いいんですが、すごく乱暴で荒っぽいので、窒息死した女もいました。

それからエージェントを通してスイスで仕事することに決め、ここに来ました。もう三カ月以上たつんですが、バーのマネージャーとしつこく衝突しているのだから幸せじやありません。でも、弟や妹たちを学校へ行かせるために一カ月五〇〇〇バツ(三万五千円)家に送らなければならぬので、辛いことがあっても、この仕事をやるわけにはいきません。



### ジット(22歳)——夫の暴力

私の故郷はナコンサワンです。両親は小さな畑をもっています。兄弟は七人いて、私は六番目です。家ではトウモロコシをつくっていて、私はよく畑に出て親を手伝ったものでした。干バツの時は、ほんの少ししか収穫がなくて、ほとんど現金収入にはなりません。

だから私はバンコクで働くことに決めました。運よく織物工場に職をみつけたんですが、工場主が税金を払えなくなると、その工場は閉鎖されてしまいました。そのあと、私は大学の寮の掃除婦になって、そこで石工をしている夫に出会ったんです。一緒に暮らすようになって二年になります。一歳になる男の子がひとりいますが、その子は早産でした。夫が酒を飲むときまって私をぶったからです。彼は一日五〇バツ(三百五十円)稼いだのですが、ほとんど酒とギャンブルに使ってしまいました。子どもを産んでから私は働いていません。夫は私と子どもの面倒はほとんどみないし、もっと辛いのは、しつこく私をぶつことです。別れたいと思っています。

私が妊娠七カ月の時、夫が女を家に連れてきてその女と寝たのを、いまでも忘れられません。もう私を愛していないと思います。私は稼ぎのいい仕事はほしくないです。そうすれば、子どもとふたりで食べていけるから——。でも、教育のない私に、いったいどんな職場があるのでしょうか？

出典: Thai Development Newsletter  
FOURTH QUARTER 1984



タイ

タイの町を歩いてみると、どの市場でも路上でも溢れる物売りのほとんどは女性である。生き生きと動き回る彼女たちだが、タイ社会で置かれている位置は厳しい。仏教国のタイ社会では、歴史的、文化的に男女差別がはなはだしい。タイでは、一九〇七年に男子の義務教育制が敷かれたが、女子の義務教育制はその十四年後の一九二二年(ちなみに日本は一九四五年)であった。一九三二年の革命以後、法律上には女性も男性と同等になったが、実際には様々なところで女性への差別がある。

女性の多くは農業についているが、農村の近代化により伝統的な自給農業が急速に衰え、生産の場から女性達がはじきだされ、都市に流れていく。上にとりあげたのはそうした女性ふたりの手記である。しかし、職は限られ、女性パートの日給は平均五五バツ(男性七〇バツ)で、これは政府の定めた最低賃金より低い。

政府機関で働く労働者の四〇%、政府系企業ではその三〇%が女性である。しかし、高い地位についている女性ほとんどなく、低い地位で甘んじなければならぬ。私企業で働く女性は、雇用期間中の結婚を認めないとか、産休を全く認めないという会社もある。お手伝いさんなどは身分保障なるものは全くないことが多い。

いま、女性の権利という言葉さえあまり浸透していないタイの中で、女性も男性と同じ権利をもてるようにと活動をすすめる女性のグループができてきているのは新しい動きとして注目される。



## 農村のおんな

タリブは怒っていた。節くれだった手にお茶の入った茶碗を持ち、黙って階段の一番上に座っているトク・マンに挨拶すらしない。「お前は俺の女房なんだ。子供を連れて一緒に来るんだ。荷物をまとめる、今すぐだ」ロキアはタリブの方へと傾いていく自分を感ぜながら、苦痛でいっぱいだった。なぜなら彼女がこんなに押し黙っている背後にいる父と離れられないことがわかってから。

「うちへ入ってよ、今晩はここへ泊ってそして話しましょ。それで私達がお茶を出ていかなきゃならないのなら、怒ったりしないで明日の朝出発できるわ」とロキアは嘆息した。しかしタリブはこの妻の父の家にいるのを拒んだ。義父は彼がペラクまで自分の土地を捜しに出て行ったとき、タリブのことを口汚なくののしったのだった。ロキアはただひとり娘だから、老いた両親を捨てて、こんな争いに結着をつけてタリブについて行くことはできない。

「おまえのために帰って来るのこれっきりだ」と別れの言葉を残して、タリブは夫の田舎を歩み去って行った。しかし彼は帰ってきた。もう一度入口の階段の下に立ち、しかし家の内には決して入ろうとせず、子供をよこせと言っている。タリブは言う。「おまえが来たくないのなら、ラシダをよこせ」ラシダはまだお乳を飲んでいないのうのうにどうしてあんなに渡せるのというの。ロキアは言った。

タリブが階段の下を踏み固められた地面に立って、ロキアと一緒にこうと言ひ、トク・マンが彼女にとどまっていきたいと願ひながら黙って階段の上に座っていた時間から、ロキアと母のトク・テが辿った運命を追ってみよう。ロキアが従順な妻であるより親孝行な娘となろうとしたとき、彼女はついに貧困そのものへと続く道を選んだのだった。二年もたたないうちにトク・マンが死んだ。ある朝、彼は脇腹に激しい痛みを感じたが、草を刈りに行かねばならなかった。昼には自転車修理屋に持って行った。堤に沿って家へ帰る途中、彼は自転車から落ちた。やつのことと起き上り、自転車はそこに置いたまま家に帰ったが、午後、草を刈りかけていた畑に戻った。そして泉で水浴びをしているときに、ついに倒れた。トク・テとロキアは彼を道へと運び出し、病院へ送り、片方の腎臓が除去された。し

うだったその時はそれも返してもらおうよ」

四カ月後、ロキアは残された田に立って、はじめにあたりを見回していた。稲は丈高く青々実っているように見える。しかし、茎の芯では、鮮やかな緑色がひからびた茶色変っているのがわかってきた。田は赤枯れ病（いなごが媒介するウイルス）によってできる病気で直しようがないにやられていた。

一年前、トク・テとロキアは最後の半レンルの土地も失った。以来家族皆が、ロキアが売った餅でその日暮しをしている。ロキアはえびの風味の餅を作り、二マイルほど離れたアローシヤングスの茶店へ持って行く。毎朝早くそれを作り、帽子をかぶり、自転車に乗って配達に行く。午後にはまた店へ行って、その日の売上げを集め、残った餅を持って帰る。これで、原料として買わねばならない餅とえびとココナツの費用を差し引いて、一日に二・五から三ドルぐらいになる。これで四人の家族を養わなければならないのである。ここからラシダのために取る分が第一だ。というのは彼女を学校にやるのが優先される学校で食べものをかうのに五十セントかかる。「油でいためたごはん一皿が二十セントもして、これ一皿では育ち盛りの子供はおなか一杯にはなりません」とトク・テが言う。ロキアは一週間に20ガントンの米を買う。これが六ドル、一週間分の食用油が一・五ドル、これら最低油が一・五ドル、これら最低の必需品だけで収入の半分が消えてしまう。今、四歳の息子フィロソは時々お母さんの買ってくるおみやげ——スーパチエンドールジュースの小さなプラスチックの一袋——をたのしみにしているが、ほかの家族には栄養のある食べものはほとんどない。

田植の季節だけが良い時期である。ロキアの顔はその話をするときにはぱっと輝く。彼女は田植をしながら旅をして歩く五人組の田女となる。自分のところの女たちを田へ出して働かせるには裕福すぎる農民たちが、ロキア達を雇うのである。女たちの顔は日に晒されて黒くなり、足はひるに吸いつかれ、かがみ込んだ背中が痛む。しかし手配師の車に皆で乗り込んで元氣よく田舎を行くときには、一種のお祭りのような雰囲気がある。彼女たちは皆似たような身の上にある友達であり、ポケットには一カ月の稼ぎが入っている。ロキアは言う。「昨年は三五〇ドル稼ぎました。1レンル植えて七〇ドルで私達皆四五五レンルは植えましたから」。「お米も買えし、おかずや魚の肉も買えま

かし、この力強い男、家族の全てが頼りにしていたトク・マンは三か月の間、糖尿病末期の激痛にさいなまれながら、床の上の敷物の上でむなしく衰弱していき、そして死んだ。そして老いた寡婦と離婚した娘と幼い孫が残された。年下の孫はロキアが二度目に結婚——五カ月しか続かなかった——したときの子だった。なぜロキアがアドナンと結婚したのかはわからない。ロキアはそのことを話したがらない。ともあれ彼は無一物で引越してきた。土地を持たず、親戚といつても養母とその娘だけで、つまり彼もまた相続すべき財産を何一つ持っていなかった。タリブとは違って、アドナンは一度も借りた田んぼを管理したことがなかった。その上悪いことには、自分の村に別れた妻と六人の子供が居たのだった。ロキアは後になるまでそんなことは知らなかったが、アドナンがトク・マンの家を去ったのは、ロキアが彼の子供を身ごもって三カ月後だった。

トク・マンがやつと埋葬された頃、地主のシエド・フサインがトク・テを訪ねてきた。そして階段の下から呼んだ。トク・テは彼を招き入れた。シエドとは親しい仲だった。トク・マンは土地をまずシエドの父から借り、次いでロキアの生れる前にシエド自身から借りていた。シエドは自分では一度も土地を必要としなかった。トク・マンはよく働き、信頼できる借り手だった。

シエドが話の核心に触れるまでには時間がかかった。「土地を3レンル返してもらわなくちゃならないんだ」とついに彼が言った。「トク・マンが亡くなったことだし、田をやつていく者がいなくなったわけだ。3レンルは大変だ。女手では広い田を作るのは無理だ。それでも2レンルはある。二人分には十分だろうよ」。「私達は貧乏にしとくには十分ってことね」とロキアは苦々しく思った。が彼女は答えた。「近頃では男の仕事も機械がやってくれるようになって助かります。それに私は田植はいつも上手にやってきましたし、ほかの仕事も父さんを手伝ってました。親父をつくりの口をききやがって、とシエドはぶつぶつひとり言を言ひながら、水浴び場のあたりを歩き回り、結局たった2レンルの土地しか来年は貸さないこととして帰っていった。

次の年、トク・テとロキアは残された2レンルの土地でよい収穫をあげた。トク・マンが残しておいた金で、草を刈る人夫と耕運機を借りることができた。ロキアはいつもと同じに苗床でがんばり、また水を張った田で長い時間身

した「フィロソとラシダは新しい洋服を買ってもらった。またロキアは学校の制服を二揃い買いラシダの学校の始まる日に備えておいた。そして残りの金は、来年のこの時期まで毎日毎日をなんとかして暮らしていくためにとっておくのだ。

（注）  
1レンル＝約〇・五三三㎡  
1ガントン＝約三kg

をかめて田植をした。雨はちょうどよい時にたくさん降り、取り入れの時は豊作となった。コンパインの使用料とシエドへの小作料を払ってもなお、次の収穫時まで食べていくのに十分の糧が残っていた。

しかし次の年、つまり一九八〇―八一年は災難だった。干魃がグヌングの田を襲い、一年中続いた。「何の収穫もありませんでした」とトク・テは言う。「私達が食べていくには、ロキアが人の田で田植をして稼ぐしかありませんでした」。

政府は、農民がポンプで水を田へ引き、少しでも稲を救えるように、村の近くの川沿いに大きなポンプを据えつけた。しかし、トク・テは年をとっていてそれを動かせなかったし、ロキアのような若い離婚した女がそんなことをするのはこの村のきまりが許さないことだった。政府がもう一つ、一九八二年の凶作のあと、各地帯に1レンルにつき、六〇ドルの援助を行った。しかし、これもトク・テの家には届かなかった。みんなが金を受け取ったのに、トク・テはもらえなかった。理由を聞いてみると、トク・テの申込用紙は政府のオフィスに届いていないというのだ。おそらく、女の名前での申込みは受け付けてもらえなかったのか、あるいは申込みを取りまとめた所がそれをなくしてしまったのか。どうしてなのか、トク・テにはわからない。

シエド・フサインが再度訪ねてきたとき、ロキアは田に出ていて留守だった。トク・テは彼が畦を歩いてくるのを見て恐しかった。何を言いに来たのかがわかったから。型通りの挨拶が終るとシエドは切り出した。「もう二年間も小作料を払ってもらっていない。私も息子の教育に金が必要のですね」。「昔、干魃にやられたんですよ」とトク・テはやり返した。「米が全然穫れなかった田もたくさんあります」シエドはこの釈明を無視して言った。「あなたたちだけで田をやつていくのは無理だ、今年どうなったか見てみませんか。土地を耕す男手が無いんだから」。「それに今は私にとっても時期が悪いんだ」と彼は続けた。「小作料を前払いしても借りたという人がいるんだ」トク・テはうなだれた。ロキアだったら喧嘩になるだろうと彼女は思った。でもそれが何になるのだ。シエドは顔を手でこすった。「私だって土地を取り返したりしたくないんだ。しかしどうしたらいい、家内が言うんだ、土地の税金を払う分ももらってないってね、あなた達が食べていけないのよ、う半レンルは残しておくから、しかし来年また払えないよ

## マレーシア

マレーシアはスズ、木材、石油など天然資源に恵まれた豊かな国土に、マレー人（五五％）華人（三四％）インド人（一〇％）合わせて千四百万人が住む多民族国家だ。人間間の経済格差と貧困追放を目ざすという新経済政策が七〇年から始まり、輸出加工区や工場団地が各地に作られた。輸出加工区や工場団地が各地に作られた。多国籍企業が繊維、電子などの工場を進出させ、そこに雇用されるのは若い女性たちで、こうした工業化がマレーシア女性の状況を大きく変えた。

マレー人は農村に、中国人は都市に、インド人はプランテーションに住み、動いていたが、農村から大量のマレー女性が工場へ流れ込んだ。人種を問わず製造業で働く女性は増え、七〇年の七万三千人から七九年には三〇万人近くに達した。そのうち電子産業で働く女性は七〇年わずか三千人だったのが、七二年四万七千人に、八三年には十万人に激増した。マレーシアの労働者の中に占める女性の割合も、七〇年の三三％から八一年の三六％に増えた。しかし、女子労働者は教育水準の低い未熟練労働者が多く、月二百ドル（二万円）以下の低賃金層が三〇％にも上る（男子は一〇％）。

工業化の中で女性を労働市場に引き入れても、伝統的な性別役割分業は温存したいというのが政府の政策で、女性に補助的労働者と位置づけられ、家事との二重の負担を強いられる。そして、今なお多数を占める農村女性も貧困の中に取り残され、イスラムの女性観に基づいた「女は家庭に」というイデオロギーを押つけられている。農業の近代化で女性は仕事を追われ男性への従属が強まっている。政府の農村女性のための開発プログラムも女性に力をつけ解放することよりも、よりよき妻、よりよき母にする」という意図で進められている。



## 「性的ないやがらせて職場を去った」

### —三人の女性の体験談—

私は十八歳のとき、この会社に秘書として働き始めました。初めはすべてが調子よく、雇主は私にとってもよくしてくれました。しかし六ヵ月後、状況は変わり始めました。彼はしばしば残業のため居残るようになり仕事をいつけました。その間彼はいつも私の肩に手をかけて、私のすぐそばで息をしながらすぐ横や後に立っていました。私は恐ろしくていつものがれようとしていましたが、だめでした。ついに私はやけになって彼に離れてくれと言ったのですが、彼はただ笑って、「何もそんな騒ぎだてることはないさ」と言いました。その後は彼のそんな行為はなくなったのですが、その一週間後、私の引き出しにポルノの本や雑誌が入っていました。私が彼の前につかつかと歩み出ると、彼は私を見て笑って言ったのです。「きみは、いままでもこんな本を読んだことがないと言わなかったかね、もしそうなら大いに読むべきだよ」と。私はもうどうしてよいかわからず屈辱的な思いで仕事をやる以外考えられませんでした。

(秘書23歳)

私が去年働いていた工場は、上司がほんとに恐ろしかったんです。彼は週末ごとに私たち数人のうち一人ずつ、マリナーパレード海岸のようなところへ連れていくんです。私たちが断れば彼はいやがらせをするのです。たとえば、私たちが必要なときに休暇をとることができないようにするとか、他の女性よりよけいに働くようしめつけをきびしくするとか。私たちはどうしてよいかわからなくて、とうとう何人かでやめたのです。その工場ではいま、事態があの時より良くなっているかどうか知る由もありません。

(織物工場労働者20歳)

## 文字を知らないで…

日本にあこがれてきたのではない  
親きょうだいといわかれて  
泣きながら、生きるために、  
ふるしきづつみをもつてわたった  
その日からくろうのはじまりである  
だれにもかんげいされない  
旅から旅へ  
よめない目をして  
かけない手をして、さまよいながら見るゆめは、  
せめて子どもたちには  
こんなくろうはさせまいと  
心にちかうことであつた

出典：ある「オモニ・ハッキョ」の生徒の詩から

※オモニ・ハッキョ（お母さん学校）は、文字を学ぶ機会をもたなかった在日韓国・朝鮮人の女性たちのために、地域でボランティアによって運営されている識字学校。



私は数年前、シンガポール国立大学を卒業して、昨年始め、日系デパートに勤め始めました。八ヵ月たったある日のこと、閉店間際に支配人が私に近づいて来て、「きみは恋人がいるのか」と聞いてくるんです。彼は結婚しているのですが、私は彼がそんなことを聞くことに驚いて、内心では彼には全く関係のないことと思いつつも、「いいえ、いません」と答えました。彼がその日の夕方、仕事が終わるとデパートに誘ってきたので私はなお驚きました。私は即座に、「今晩は夕食は家で」と言っているから」と言い訳をして断ると、「明日はどうか」と言ってくるんです。また私が断ると、その時はそれで何ごともなかったのですが、次の日、私は、彼が私たち二人だけになるようにいっしょにうけんめい機会をつくろうとしているなというのをずっと感じて、とても不愉快でした。案の定、午後三時ごろその機会がきて、彼はまた「デートしよう」と言ってきたのです。私が断ると、彼は怒り出し、「なぜいいことを聞かないか」と私をおどして荒々しく部屋を出て行きました。

それから彼はいろいろなことで私をやりにくくさせ始めました。私はいままでもしたことのないうような、屈辱的なくり返しの多い仕事をしなければならなくなりました。私は彼のところに行つて、フェアであったほしいと頼みましたが、彼からはただ、「きみは自分が頭がいいと思つていられるが、君はただの女だ」ということを忘れないほうがいいよ」というひどい言葉が返ってきたのでした。それ以後、事態はさらに悪くなったので私はついに、自分から次の仕事を見つけてやめました。

(販売部門管理職)

出典：LABOUR PAINS

Coming to grips with sexual inequality  
By an asiapac publication  
1984, SINGAPORE

## 黒い指あとのうた

時代の中生き継ぐ指の傷ふかく  
さらして拒否の群続くなり  
李 正子  
押捺の大量拒否の秋はすぎ  
真夜の電話にさめておびゆる  
梨花美代子  
また差別助長するのみと母言いき  
されど今日よりわが名はヨンジヤ  
金 英子

出典：『朝日歌壇』一九八五・一九八六

### シンガポール

淡路島ぐらゐの島に人口二五〇万人のミニ都市国家シンガポールは、七五〇の華人（中国系住民）とマレー系、インド系住民から成る多民族国家である。経済成長率はズバ抜けて高くGNP（一人当たり）はすでに五千ドルを越えて東南アジアで突出している。経済開発優等生だが、政治的にはリー・クアンユー首相が率いる人民行動党（PAP）が独立以来三十五年間政権の座にあり、八一年までは議会も全員与党という一党支配の下で市民の政治的自由は極端に制限される抑圧国家である。女性の地位は、PAPが婦人有権者の票を意欲して初期にはかなり進歩的な政策をとり、六一年に「婦人憲章」を制定したり、六二年に公務員給与の男女差別を撤廃したりした。中国社会が引きずる男尊女卑を改めるのにそれなりの効果は上った。ところが、これ以後婦人問題は政府にとってマイナーな問題として背後に押しやられてしまった。六〇年代半ばから七〇年代にかけて国家資本主義的な経済開発至上政策が進められ、女性は労働力として動員された。五〇年代には労働者の四分の一しか占めていなかった女性が、八〇年代には半分を占めるまでに増えたのである。特に、シンガポールの輸出志向型経済開発を支える縫製、電子の二大労働集約産業に女子労働力が吸収されていった。

これは、女性の働く権利の保障というよりも、経済的要請によるものであり、政府は「女性の家庭化」（女性の本来の場は家庭）イデオロギーをむしろ強化し、七九年からは私生活でも職業生活でも性別役割分業を強調するようになった。女性はますます賃金の安い職場に追いやられ、男女の賃金格差は拡大する傾向である。

この性別役割分業固定化政策の行きついたところが、八五年のリー首相の学歴別人口政策であった。（機関誌16号参照）高学歴女性が結婚をいやがったり、子どもを産まなかったりして女性の重要な役割である母親、つま

り次の世代の創造者、保護者という役割を果たさないことはゆゆしいことだ」と、教育を受けた女性は結婚して二人以上の子どもを産めと命じたのである。これはリー首相がかねてから説いている「人間の能力は遺伝八〇％、環境二〇％」というナチスばりの優生思想に基いた発想であり、恐るべき差別思想で女性の生き方を管理しようとしているのだ。ただ、日本と比べて、シンガポールの女性の社会進出度は目ざましく、行政、ビジネス、学界などあらゆる分野で活躍している。逆説的にいえばリー首相を不安がらせるほどまでにキャリアウーマンが目立つというところである。儒教の女性蔑視という共通の伝統を持ち、資源のない労働力不足国で効率第一の経済成長政策という点でも似ているシンガポールと日本で、女性の地位がこうも開いたのはなぜか——解明したい点である。

### 日本

#### 在日韓国・朝鮮人の女たちはいま

「女は三日殴らなければキツネになる」という古いことわざに示されるほど、昔の朝鮮では、女の地位は低かった。その上、植民地時代の朝鮮人には、義務教育制度は適用されなかった。——識字率九九％、世界でも有数だと誇る日本の社会の一隅に、文字を学ぶ機会をもたなかった在日朝鮮・韓国女性たちが何人も住むゆえである。彼女たちは豊かな生活の知恵と、あるものはまた生来の知性で、何とかカバーしているものの、日本での都市の生活で文字を知らないことは大変な生活上の不便を味わうことになる。何とか勉強したいという人々の切実な思いにこたえて開かれたのが、大阪・京都・東京などで、公立中学におかれた夜間中学であり、あるいはボランティアの手によるオモニ・ハッキョ（お母さん学校）「アジュメ学級（オバサン学級）」である。そこで文字を学んだ人々が、新しい書き手となりつつある姿を私たちは感動をもつてみつめる。



## 光州 —そして一年—

李 槿 花

祖国が死んでゆく

一人またひとり

かけた心臓

もぎとられた手

ひきちぎられた舌

良心の死が肉体の死でなければならず

愛国者らの流す血が祖国をやせ衰らせる

ブラウン管のこちらで

髪を切っても血が出ないように

絶望に刺された心が

バラバラと散らばるのに耐えていた

—そして一年—

土にかえる事をはばまれた魂が

どの風

どの木に

止まって泣いているのか？—

「私達は愛するんだ！」

「私達は生きるんだ！」

祖国の冠をかぶった鬼が審判した

「答えは死だ！」

生きようとして死んだ

生きようとして死んだ者の叫びがやむ事はない

—そして一年—

どの山で

どの河で さすらい泣いているのか？—

足かせをじやらじやらと鳴らしながら

人々はこの地をゆきかう

悲しいと泣く事さえ失ない

怒りがつもって無口になり

あー死んで叫び続ける魂と生きてつづまれた叫びが

そこ、ここで交差する

そのとどろきにだれもが安眠する術をもたない

—そして一年—

韓半島が

三千里錦す江山が

そこ、ここで泣いている—

鬼よ！ 枯れた祖国の風化を待ち

心中しよう夢見ているのか

魂などとつくに死んだら！！

からっぽの肉体をかかえ散ってゆくがいい！

一枚の地図

—そこが小白山脈

ここが ナットンガン ナットンガン

そこに愛国の屍

ここに正義の屍

これが光州

出典：光州だけが光っていた—光州連帯詩集



## コンピュター

コンピュターは

女をはじき出す

女の味方のような顔をして

女の誰れかをはじき出す

コンピュターは

女の敵

ピカピカ光って、清潔なのに

女の誰れかを泣かせている

コンピュターよ

女たちは、お前を待っていた

お前の手助けて、自由な時間が

ふえると思っただからだ

だが、お前は

女の涙ばかりをふやしてくれた

## 旗

栗 原 貞 子

日の丸の赤は じんみんの血

白地の白は じんみんの骨

いくさのたびに

骨と血の旗を押し立てて

他国の女やこどもまで

血を流させ 骨にした。

いくさが終ると

平和の旗になり

オリンピックにも

アジア大会にも

高く掲げられ

競技に優勝するたびに

君が代が吹奏される

「君が代は千代に八千代に

苔のむすまで」と

そのために じんみんは血を流し

骨をさらさねばならなかった。

今もまだ 還って来ない骨たちが

アジアの野や山にさらされている

けれども もうみんな忘れて

しまったのだろうか。

中国の万人抗の骨たちのことも

南の島にさらされている

骨たちのことも

大豆粕や蝗をたべ

芋の葉っぱをたべて ひもじかったことも

母さんと別れて集団疎開で

シラミを涌かしたことも

空襲警報の暗い夜

防空壕で 家族がじつと息を

ひそめていたことも

三十万の人間が

閃光に灼かれて死んだことも

もうみんな忘れてしまったのだろうか

毎晩 テレビ番組が終ったあと

君が代に伴奏され

いつまでも いつまでも

ひるがえる 血と骨の旗。

じんみんの一日は

日の丸で括めくられるのだ。

市役所の屋上や

学校の運動場にもひるがえり

平和公園の慰霊碑の空にも

なにごともしなかったように

ひるがえっている。

日の丸の赤は じんみんの血

白地の白は じんみんの骨

日本人は忘れても

アジアの人々は忘れはしない

出典：詩集 核時代の童話



# いまなぜ「日の丸」「君が代」?

北 辺 阿 貴

一九八五年九月、文部省は全国の教育委員会に対し、公立学校の入学式、卒業式の時、「日の丸」掲揚と併せて「君が代」の斉唱の徹底を求める通達を出した。これまで「日の丸」「君が代」は、学校現場で論議の的となっており、校内でも対立が続いてきた。そこに、文部省が直接介入したのが今回の通達である。

特に一九七七年に改訂された学習指導要領で、「日の丸」を国旗、「君が代」を国歌と定めてからは、学校現場での対立は深刻化していたが、今回の通達はこの対立をさらに深めることになるだろう。

日本の法制度には国旗、国歌を定めた条文はない。文部省が国歌、国旗を勝手に「認めている」にすぎない。しかも今回は、学校での「日の丸」「君が代」の実態調査をし、教育現場でさらに徹底をさせようとしているのである。

「日の丸」はどこからきた?

かつて「日の丸」は、上杉謙信などの戦国武将が旗じるしとして用い

たり、南蛮貿易・御朱印船の旗、幕府の年貢米を乗せた船の旗などにみられた。欄外「日の丸」の歩みをみると、戦後政府が「日の丸」を国旗として定着させ、特に学校で復活させようとしていった過程が明らかである。

「日の丸」をめぐる、学校現場でどのような論議がかわされているのか、ある事例を紹介してみよう。

東京都内のある公立中学校で、「日の丸」を卒業式、入学式に掲揚するかどうか職員会議があった。カンカンガクガクの討論が続く、多くの教師が反対意見を述べた。決議に入ったところ、圧倒的多数で「日の丸」は掲揚しないと決定された。にもかかわらず、突然、校長が立ち上がり「校長権限で掲揚する」と発言、職員会議は大混乱になった。結局、当日、外に勝手に掲げておく分にはよいというところで双方が合意し、職員会議は終わった。この会議での校長発言によって、当日出席する教育委員会が「日の丸」掲揚の有無により、校長の管理能力を評価するということが明らかになった。

「日の丸」の学校への浸透は、もはや卒業式や入学式に限ったことではない。ある中学校では、毎日「日の丸」と校旗の掲揚・降下時に、校内放送で校歌が流される。すると、生徒たちは廊下にいようがトイレに入っているようが、とにかく「日の丸」「校旗」の方向に向かい、直立不動の姿勢をとらなければならない。

さきの文部省通達は、こうした学校の現状を考えると、「校長権限」をさらに助長させ、直立不動で「日の丸」に注目する生徒づくりに拍車をかけることにもなるだろう。

「日の丸」から「日の丸弁当」を連想する人々、「日の丸」の旗をふって、アジアの地(中国、朝鮮、シンガポール、フィリピン、インドネシアなど)へと侵略兵士を送り出した記憶をもつ人々もいる。シンガポール陥落に「日の丸」をふり提燈行列をした人もいるだろう。「日の丸」は軍歌などと共に日本のアジア侵略を象徴するものとなっていた。

戦後四〇年、「日の丸」がアジアの各地にひるがえるようになった。日本が今また経済力をもつてアジアの地に進出している。かつて侵略の象徴だった「日の丸」が、再び自国に翻るのを、アジアの人々はどんな思いで見ているのだろうか。

「日の丸」に今も連綿と続いている

侵略国家日本の姿を見ているのではないだろうか。「日の丸」は血塗られた歴史を背負っている。

「君が代」とは――

「キーミーガーアヨハ……」独特の節回しで「君が代」を歌ってくれたのは、マレーシアの六二歳の男性であった。彼は今でも直立不動の姿勢で「君が代」を歌い、そうしないと「兵隊からビンタをされましたよ」という。日本軍は、侵略したアジアの地で日本語教育を実施し、「君が代」を教えたのである。

もちろん「君が代」にも国歌としての法的根拠は何もない。研究者たちでさえ、どうして日本の「国歌」といわれるようになったかよくわからないというのが大方の意見である。「君が代」の歴史は欄外参照。

歴史的にみれば「君が代」も「日の丸」と同じように政府の力で学校に入り込んできたことが明らかである。

「君が代」は、その歌詞の解釈もまた問題となる。「君」とは何をさすのか。文部省の解釈では「国家統合の象徴である天皇のおられるこの国は」とのことである。この解釈をもって、文部省は学校に「君が代」斉唱の圧力をかけているのである。

一九六九年、群馬県で、「君が代」に抗議して「まわれ右」と号令をかけた教諭が処分された。一九七八年には福岡県で、「君が代」をジャズ風にアレンジしたとして教諭が処分された。一九八三年には埼玉県で卒業式当日、教頭が放送用テープをこっそり入れかえて、「君が代」を流すという事件が起きている。一九八四年には大阪で、「君が代」斉唱に賛成しなかったという理由で、校長が降格処分を受けている。同じ年東京では卒業式に一部の父母が押しかけ、宣伝カーでスピーカーから「君が代」進行曲」を流した。

私たちはいま

一九八五年、私たちは軍国主義の新段階を迎えたのではないだろうか。「日の丸」「君が代」通達に始まり、八月十五日には、多くの反対を押し切って中曽根首相が靖国神社公式参拝を強行した。これは、「太平洋戦争」に対する政府の再評価に連なるものであろう。

「日の丸」「君が代」「靖国」の強要といった一連の軍国主義の動き、アジアへの経済侵略、それらへの歯止めをかけるため、いま私たちに何ができるだろうか。十五年戦争の戦争体験をどう継承し、反戦への行動と

して結実させていくのか。戦後の見直し論が叫ばれるなかで、私たちの戦争責任をふまえた戦後の見直しと反戦・平和の行動が、いま大きく問われている。



## 「日の丸」「君が代」の歴史

- 一五八〇年 上杉謙信一族「紺地ニ朱ノ日ノ丸」(金津陣物語 第四巻)
- 一六三〇年 朱印船の旗、日の丸の中に文字(角倉船図など)
- 一八六〇年 遣米使節団の威臨丸にはじめて「日の丸」の旗をかかげる。
- 一八六九年 薩摩藩士、イギリス軍楽隊長W・フエンソンに「儀式用の国歌」を問われ、古歌「君が代」を選ぶ。
- 一八七〇年 太政官布告第五七号「郵船商船規則」で「御国旗」(日章旗)を定める。
- 一八七七年 政府、外国渡航の船舶は「日の丸」掲揚のこと(太政官布告第二二二号)。
- 一八八〇年 林広守作曲の「君が代」、ドイツ人音楽教師エッケルトの協力により出来あがり、天皇節で初演奏される。
- 一九〇〇年 小学校令施行規則の「祝日の儀式の仕方」で「唱歌を課せざる学校」においては「君が代」など祝祭日唱歌の合唱を省略することを得とする。
- 一九三一年 「大日本帝国国旗法案」第五九回帝国議会に提出されたが、貴族院での審議未了のため廃案となる。
- 一九三七年 国定教科書「小学修身書 巻四」にはじめて「第二十三 国歌」掲載。
- 一九四二年 国定教科書「初等科修身 二」に「一 君が代」となる。国旗も「日の丸の旗」となる。
- 戦時中、「日の丸」「君が代」は、軍国主義日本のシンボルだった。出征兵士は「日の丸」の小旗に送られ、殺りくと侵略に追いつた。また侵略先のアジアの国々では、人々は「日の丸」を掲げ「君が代」を歌うことを強要された。台湾の子どもたちが学校で最初に出会った歌は「ヒノマルノハタ」だった。
- 一九四五年 敗戦。「新日本建設の教育方針」による教科書の省略・削除(墨ぬり)にも「君が代」「日の丸」は残る。
- 「日の丸」掲揚は、各地進駐軍への個人申請による許可を必要とすることとなる。
- 一九四七年 新憲法施行にさいし、国会議事堂・首相官邸、最高裁判所、宮城の四方所に掲揚許可。
- 一九四八年 十二祝祭日には掲揚許可。
- 一九四九年 年頭のマッカーサー司令官の挨拶で一般国民の掲揚も許可される。
- 一九五〇年 天野貞祐文相、「国旗掲揚・国歌唱和」談話発表、通達(学生生徒・児童に対し祝日の意義を徹底させ、また国家及び社会の形成者としての自覚を深くさせるため、祝日行事として談話、講演会、学芸会などを開くさい、国旗を掲揚し、国歌を唱和することが望ましい。各官庁、各家庭でも祝日には国旗を掲揚するようにすすめる)。
- 一九五八年 文部省、小学校学習指導要領を改訂し、「国民の祝日などにおいて、儀式などを行う場合には、児童に対してこれらの祝日などの意義を理解させるとともに、国旗を掲揚し、君が代をせい唱させることが望ましい」とする。
- 一九六二年 国旗掲揚推進協議会発足。
- 一九六四年 東京オリンピック開催を前に、総理府に国旗・国歌・国章・国号・元号などの法制化のため「公式制度連絡調査会議」を設置するも何もままらず。
- 一九七七年 文部省、小学校学習指導要領改訂で、教育課程審議会にもはからず「君が代」を「国歌」や「国歌君が代」とし、批判をうける。
- 一九七九年 自民党・教育問題連絡協議会、文教部会、文教制度調査会の各会長名により「卒業式・入学式における国旗掲揚及び国歌、君が代、斉唱について」各都道府県支部連合会の幹事長・教育問題対策議員連盟委員あて通達。
- 一九八四年 自民党の通達指示。神奈川・福岡・滋賀・長野・熊本・新潟・埼玉などの県議会にて「日の丸」「君が代」決議強行。
- (知るや「君が代」知らずや「日の丸」国家を考ふる会編より)



# 光州のオモニたち

光州事件五周年記念集会での報告(85年5月25日)

松井 やより

五月の光州——民主化を求める市民たちが立ち上がり、二千人を超える人々が虐殺された光州事件から五年目に、この地を再訪した。私のアジアとの原点ともいえる韓国を訪ねてアジア特派員生活三年半のしめくくりにしたいと思ったからだ。

四年前に訪問したときは沈黙の光州であった(機関誌十一号参照)。事件の翌年の八月十七日のことで、市民・学生で埋め尽くされたメインストリート錦南路には、建物に弾痕が生々しく残っていた。しかし、市民たちは事件にふれることも禁じられ、遺族たちも、犠牲になった肉親のことを口にすることさえ許されなかった。暴徒の一族として迫害を受けていたのだ。

それから四年後、まず、死者たちを葬った望月洞光州市立公園墓地に直行すると、光州義挙遺族会のメンバーが来ていた。その中に白いブラウスに黒いズボンの若いオモニ(母親)の姿があった。会長や副会長が、息子たちの遺体を見つけたときのことや、その後五年間の弾圧と迫害の日々などを涙をこらえながら語って

いるとき、この若いオモニ朴福仁さん(37)は顔を伏せ、基地の草をまきぐつていた。全身でわが子を失った悲しみに耐えているように見えた。

「孝徳はまだ十四歳の中学生でした。あの日、家のそばの貯水池で近所の子どもたちと泳いでいたときに、軍隊が来て撃たれたのです。なんて年端も行かぬ子どもまで無差別に殺すのか。あんまり悲しくて、あの子と一緒に死にたいとさえ思った。今でも制服を着た人を見ると怒りで体がふるえるんです」——オモニは息子の墓石をいたわるようになって低く低い声で語った。

残された二人の子どもを育てながら、遺族会の活動に熱心に動き回っているという朴さんは「一人の母として、私のように悲しい思いをする母が二度と出ないように、そういう国にするために、できるだけのことをしたいんです」と自分にいい聞かせるようにもらすのだった。

一人のオモニが数日前、負傷して入院しているというので朴さんと一緒に見舞いに行った。市内の韓国病院六階の病室は、オモニたちで超満

員だった。公安職員に暴行された金吉子さん(46)を二十四時間つききりて看病しているのだ。当局に拉致されないようにというねらいもあった。息子を殺された金さんは、つねに監視している公安職員を振り切つて遺族会青年部設立集会に出ようとして、頭を殴られ、血だらけになつてこの病院にかつぎ込まれ、何針も縫ったのだった。遺族会のオモニたちには二人ずつ公安職員が終始つきまとい活動が阻まれていたのだという。

「ホラ、この傷見て下さい」——オモニたちは次々に腕や太ももなどの青アザや生傷を見せた。まさに、体を張っているのだ。「わが子を殺され、今も暴徒呼ばわりされているんです」。



ライドの後、会の方から八四年春期女大学「家庭・労働そして買春」の内容の報告があり、つづいて「女も男も『生』と『性』をとりもどそう」と題するシンポジウムが、パネリストに宮淑子、岩月澄江、大島静子さんを迎えて行われた。買春春に関するのなら何でも、ということ

で、少女雑誌規制、性教育、優生保護法改悪、児童扶養手当の削減、ポルノや強姦などの問題にとり組んで運動している女性たちから、アビールがつづき、日本の女性をとりまく状況のひどさが浮き彫りにされた。

討議のさ中、フィリピン大使館に務める女性が「来日する女性にはヤクザにより搾取されている」と発言。

これを皮切りに政府間会議の後に会場にきた四人のフィリピン女性のうち、女性市民会議議長・ラウデイコさんとシスター・ソルが、日本のポルノ雑誌『天国漂流』フィリピン夜の変態女痴図』を激しい口調で糾弾した。この本はフィリピンの少女を被写体にしており、人身売買を斡旋するなど、あらゆる性的暴力に満ちている。彼女たちから、訪日した出版社に抗議に行きたいと、矯風会と私たちの会へ連絡があり、この会場でフィリピンと日本の女性による緊急行動が決定された。

翌日の午後、七人のフィリピン女

## 性的搾取に対する連帯の輪をひろげよう!!

魂は闘うオモニたちの中に生き続けているのである。その独裁政権を支えているのは誰か、まさに、わが日本政府ではないか。日本に帰って、光州のオモニたち一人一人の顔を、傷を、叫びを思い起こすとき、日本の女として、光州について黙すことはできないと思うのだ。

「今は醜いものと美しいものが相争っているのであり、美しいものの勝利のために苦しみ打ち勝ちます」——夫がむごい拷問を受けた一人のオモニがキツパリといったあの言葉をしっかりと受けとめて、「美しいもの」のための闘いにささやかでもつながって生きていきたい。光州よ、永遠にと祈りつつ

この二年間の買春に関する活動を手短かに報告したい。アジアからの出稼ぎ女性などの国際買春と共に、日本の女性をとりまく「性」の状況をテーマとして活動した。体を売らなければならぬ女性たちは、私たちの「分身」だからだ。

### ●ESCAP民間フォーラム

八四年三月二六日には、ESCAP民間フォーラム「売春」分科会を担当した。民間フォーラムは、ESCAP(国連アジア太平洋経済社会委員会)がナイロビ会議へ向けての地域準備会議を東京でもったのに並行して七つの女性グループによって三月二六日から三一日まで開催された。

政府間会議でもある準備会議では、買春や女子労働者の問題は、センステイブな事柄なのでとりあげない、日本政府主催の国際シンポジウムでは、経済大国日本の女性がアジアで何ができるかを話し合うなどの情報で事前に伝わり、怒った女性グループが、政府やESCAPに抗議書や要望書を送ると共に、共同で民間フォーラムを開くことにした。各団体が、買春春、私の中のアジア、教育、労働などの分科会を受けもち、最終日には共同で集会をもち、六日間七〇〇人が参加した。

アジアの女たちの会が主催した「買春春」の分科会には一五〇人が出席し、会場の真生会館は熱気であふれた。買春観光の実態を描いたス

性を含む三〇人が神戸神保町にある三和出版に押しかけ、少女やフィリピンに関するポルノ雑誌を出版しないこと、新聞に謝罪広告を出すことなどの誓約書を取った。

### ●国際婦人デーに、三・九集会

八五年三月九日には「アジアの出稼ぎ女性をめぐる買春に反対する集会」を売春問題ととりくむ会、日本キリスト教協議会婦人委員会と共催した。この集会は八四年九月、アジアキリスト教協議会によってフィリピンで開かれた「アジアの出稼ぎ女性」に関する会議で、国際婦人デーに各国で女性の性的搾取に抗議する集会を一齐にもつとの決定を受けて行われた。

この集会に向けて八五年春期女大学「結べ、女たちの手を」を準備し、矯風会のかけ込みセンターとアジアの出稼ぎ女性がイタリアでコミニティを作って運動しているケースを学習した。また、スライド「裏切られた夢—アジアからの出稼ぎ女性」(英・日本語版)を制作した。

当日は三〇〇人余りの参加者が、神保町の山室軍平記念ホールを埋めた。各国からの連帯のメッセージがあり、女性たちへの搾取の実態をスライドで上映した。フィリピンのジャーナリスト、エストレリア・コン



ソラシオンさんにより、出稼ぎを生みだすフィリピン社会の分析と出稼ぎ女性の状況が語られた。日本とフィリピンの連帯運動のために働いているシスター、弘田しずえさんからは、日本女性が国内の差別構造を変えていくことこそ急務との訴えがあり、矯風会のかけ込みセンターの責任者大島静子さんからは、かけ込みセンター設立の理念が語られた。

#### ●「実態調査」に反対して

八五年七月から八月にかけて、「売春行為者に対する『実態調査』をやめさせる会」に加わり、阻止連や婦民と共に都の福祉局を主な交渉相手に抗議行動をとった。この実態調査は売防法三〇周年を記念して総理府が実施したもので、調査対象者は売春をした女性八〇〇人で、そのうち七〇〇ケースは法務省を通じて、警察、検察庁、刑務所などで行い、一〇〇ケースは婦人相談所などで、婦人相談員が調査すると予定されていた。しかし、「初体験」の状況など

プライバシーに立ち入る質問事項や、調査担当者が対象者の精神障害の有無まで判定するという内容で、とりあえず都を通じて実施される五〇ケースだけでもやめさせようと、都と交渉をもった。ビラまき、マスコミへの情宣活動の効果もあり、東京都、沖縄、北海道では婦人相談員の調査拒否にあり、調査が断念された。

私たちは、国内外の女性たちと連帯しながら買春に反対してきたが、今、問われているのは「実態調査」をされる側の女性とどのような連帯を組めるかということだろう。

(遠野はるひ)



## 私たちの活動報告(一九八五年)

五月十二日、恒例の「戦争を許さない女たちの連絡会」主催の「起ちあがろう女たち、広げよう反戦の輪

被害者にも加害者にもならないために」と題する集会在渋谷・山手教会で開かれました。五年前の十二

## いづば

んできない女たちのデモ」(戦争を許さない女たち主催)に参加しましたが、いろいろなグループの女たちの出合いの場で、今年は「全員」の女たちの参加が少ないのが残念でした。

(五島昌子)

※東京の勉強会に参加したいのですが無理です。夏の間合宿に期待しています。女の解放の問題を会の皆さんと直に語り合いたいと思っています。

(京都 P・M)

※アジアの女性をとりまく労働環境や日本企業のアジアへの進出から今後の日本の国際的な立場をきちんと考えなければと思っています。

これからの自分の生き方、ほんとうの自分を求めて生きていきたいのに、ただただ流されて生きているだけという気がするのです……。

(東京 23歳)

※アジアの中の日本を客観的にみるために、多くの情報を知りたいと思って入会しました。全ての問題を女の視点でとらえ返すこと、ゆがめられた「性」意識を変革することが

月、初めて「反戦女たちの集い」を開いた時の熱気がなかったのは残念でした。

五月十五日、月例の女大では、朝日新聞のシンガポール特派員として三年半、アジア各国取材してきた会員の松井やよりさんから、アジア各国の女性の状況をレポートしてもらいました。会場に入りきれない人が出るほどの盛況でした。(松井さんのアジア報告は『魂にふれるアジア』として朝日新聞社から出版)

五月二十五日には、「光州五周年の集い」を開催しました。「光州事件」で殺された学生たちのオモニに会ってきた松井さんが報告をしました。(本誌三三頁参照) 政府が緘口令を敷いても、語り継がれていく「光州」、私たちも、あの虐殺を決して忘れることはできません。五月には必ず「光州を語る日」を続けていきたいと思っています。

八月十五日、渋谷ハチ公前が女たちの出合いの場所になって五周年、「戦争への道を許さない女たちの連絡会」8・15反戦マラソン演説会に参加。8・15はいつもお天気と右翼に恵まれます。女たちのアピールには、今年はずいぶん中曽根首相によって、靖国神社公式参拝が強行されたことに、新たな侵略戦争へのきざしを鋭敏に感じとった発言が目立ち

必要だと思っています。

(大阪 36歳 高校教師)

※看護婦・保健婦の仕事は、そのほとんどが女性ですが、多忙な職業から女性の職業団体として社会への働きかけは少いです。臨床看護婦として四年間現実の多くの問題に直面して改めて、女性の問題がここにひそんでいるのに気づかされる最近です。

職場では、開発・女性・南北問題など考えようと思わない人たちが大部分です。開発問題に関わり始めて二年、フィリピンとバングラを回りました。看護という女性の職業の立場から、女性の目を通して、看護と開発にかかわりたいと思います。

四月からは、このテーマを考えるためにアジアを旅するつもりです。

(東京 26歳 看護婦)

ました。ひきもきらぬ人の流れの中で、例年になく足をとめる人々がみられ、やはり多くの人が、不安を感じ始めているのかという気がしました。

夜、渋谷労働福祉会館で、「会」の主催による「戦争責任を考える戦後40周年のつどい」映画とシンポジウムの夕べを開催、富山妙子さんの『はじけ鳳仙花』——わが筑豊が朝鮮』の上映後、シンポジウムをもちました。

富山さんからは、「はじけ鳳仙花」をもってヨーロッパを回った時、ちやうどドイツは、日本の八・一五に当る五・八で、バイゼッカー首相は国民に向けて、ドイツの侵略による各国の犠牲者、ナチスに殺された人々、ユダヤ人への加害責任をはっきり認めていたと報告があり、日本の首相との戦争責任への姿勢の大きな違いを感じました。

特別ゲストとして迎えた、イルゼ・レンツさん(在ドイツ・会員)の話、松井さんのシンガポール・マレーシアでの日本軍の残虐行為の話が続きました。会場が狭いのと時間が足りなかったのが心残りでしたが、右翼にがなりたてられ、警察に中断されたマラソン演説会の熱気がそのまま持ち込まれ、活気ある集まりでした。十二月八日、「中曽根政治にがま

## 編集後記

★「アジアの女たちの詩集」をつくらうという松井さんの提案からは半年、ついにできあがりました。

★13カ国、13人の会員に翻訳を担当してもらいました。多少の、いや、ウーンとうなるくらい誤訳もありました。(最後は船橋さんがまとめてくれました)

★レイアウト・デザインは、小川さんが、がんばってくれました。サッカーチームを率いる彼女のバイタリティにはいつも圧倒されます。

★写植はいつもの通り須田さんにお世話になりました。

★人は出合いのエネルギーによって元気になるもの、大変だったけど、楽しかった。次の機関誌の編集も始まっています。手伝って下さい。

★機関誌17号発刊を祝って、おしゃべりする会、やりませんか? 感想批判・称賛、お寄せ下さい。



## 活動報告

(1985年8月～1986年2月)

8・15 「8・15反戦マラソン演説会」(戦争を許さない女たちの連絡会主催)に参加・渋谷駅前夜:「戦争責任を考える戦後40周年のつどい——映画とシンポジウムの夕べ」(渋谷労働福祉会館)

9・15～16 '85夏合宿(ホテル伊豆高原)テーマ「開発と女性」。参加者35名。

'85秋期女大学『開発と女性』

10・16 女大学「タイの農村の暮らしと日本の関わり」スリチャイ・ワンゲーオ

11・20 女大学「市民の海外協力——バンングラデシュの実践から」大橋正明

12・8 「中曽根政治にがまんできない女たちのデモ」に参加

12・18 女大学「女性の立場で開発を考える」松井やより

1・22 女大学「開発援助、何が問題か——インドネシアを中心に」村井吉敬

1・29 学習会「ヨーロッパの民間海外協力活動」小泉順子

2・26 女大学「マレーシアの女性——経済開発の中で」中原道子



## 機関誌「アジアと女性解放」

第1号	韓国民主化闘争の女たち	300円★
第2号	買春観光を許すな!	300円★
第3号	日本企業は海外で何をしているか	300円★
第4号	アジアへの文化侵略	300円★
第5号	いま戦争責任を考える	300円★
第6号	アジアの闘う女たち	400円
第7号	女と国籍	300円★
第8号	続・買春観光を許すな!	400円★
第9号	第三世界の女と私たち	400円
第10号	光州一周年によせて	400円
第11号	特集・暮らしの中のアジア	400円
第12号	特集・戦争と私たちとアジア	400円
第13号	特集・8.15とアジア	400円
第14号	特集・侵略と性	400円
第15号	特集・全斗煥の訪日を許さない	400円
第16号	特集・アジアの女と人口政策	400円

★印は残部がありません。送料は1部170円です。郵便振替か切手代用(60円切手)で申し込んで下さい。郵便振替 東京0-46143

## ASIAN WOMEN'S LIBERATION English Edition Now Available!

- ★ No.1 Asia and Women's Liberation
- No.2 Japanese Economic Invasion
- ★ No.3 Prostitution Tourism
- ★ No.4 Asian Women in Struggle
- ★ No.5 Blown by The Winds of Asia

No.6 Sex Tourism and Military Occupation  
No.7 Asian Women and Population Policy

Price: Inside Japan No.1-¥300  
No.2, No.3-¥400

Address (for Order):  
Asian Women's Association  
Shibuya Coop Rm.211 14-10, Sakuragaoka,  
Shibuya-ku, Tokyo 150 Japan

## あなたも会員になりませんか?

★今号(No.17)は「アジアの女たちの詩」の特集です。アジアの女の詩を一冊に収めた、初めてのアンソロジー(詩集)を、お手元にお届けします。いま激動のフィリピンをはじめ、韓国、台湾、タイ、マレーシアなど13カ国の女の詩を集めました。彼女たちの怒りや悲しみ、絶望、やさしさ、そして解放へのたゆまぬエネルギーが誌面に満ちています。「アジアの女の詩」と出会ったエネルギーを、ともに抑圧をはね返していくエネルギーに換えていきましょう。どうぞ周りの友人たちに購読を勧めて下さい。そして、もっと大きい開きの輪をつくっていきましょう。

★「入会へのお誘い」のパンフレットができ、続々新会員が、入会しています。

★私たちの会も発足9年目をむかえ、活動も本格化しています。それに伴ない財政がひっ迫しております。ぜひ、機関誌を一人10冊まとめて買い、友人、知人に売って下さい。

★年間会費は3500円です。会員には機関誌、ニュースレターを送るほか、会合のお知らせも随時しています。勉強会にも参加できます。

★会員の申込みは下記まで  
東京都渋谷区桜ヶ丘14-10渋谷コープ211号

★お願い 財政がひっ迫しておりますので、まだ年会費3500円を、振込んでない方は下記まで至急お振込み下さい。ご協力をお願い致します。

送付先 アジアの女たちの会

住所 東京都渋谷区桜ヶ丘14-10渋谷コープ211号

郵便振替 東京=0-46143

スライド

## 裏切られた夢

—アジアからの出稼ぎ女性—

製作: アジアの女たちの会  
販売 価: スライド・テープ付  
20,000円

(日本語版・英語版)

貸出し料: 5,000円(送料別)

上映時間: 21分

アジアからの出稼ぎ女性たちが、どのような状況で日本の性産業で働いているか。彼女たちはなぜ日本にやってくるのだろうか。スライドをみて一諸に考え、彼女たちがそして私たちが性的搾取から解放される道をさがしていきましょう。集会などにご利用ください。

アジアの国々、なかでもこの問題にかかわって働いているグループには、英語版のスライドを安価でわけてくれるので、カンパ大歓迎です。

連絡先: アジアの女たちの会

担当: 金子 ☎045-592-4950

アジアを女性の視点でみる

# 魂にふれるアジア

松井やより

定価1,200円

幼い労働者たち/宗教と自由と/アジアの8月15日/  
シンガポールの素顔/市民たちの海外協力(目次より)

貧困、人口爆発、売春、言論弾圧、人権問題、伝統宗教、人種対立……多くの難題をかかえるアジアの人々に対して日本は何をなすべきか、何ができるのか。アジア18カ国をかけめぐった朝日新聞の女性特派員が問いかける注目の現場取材レポート。

朝日新聞社